

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
11	明治27年	春の部	江の村や東風吹きそめし軒の簑	東風	天文
12	明治27年	春の部	鳩啼くや若草むしる女の子	若草	植物
13	明治27年	春の部	露の臺花となりけり小藪道	露の臺	植物
14	明治27年	春の部	梅が香や机の上の萬葉集	梅	植物
15	明治27年	春の部	梅咲いて琴の音すなり西の對	梅	植物
16	明治27年	春の部	やり梅の湯殿に赤き袂かな	梅	植物
17	明治27年	春の部	紅梅や隣りの娘としいくつ	梅	植物
18	明治27年	春の部	梅咲いて狩野の一軸古びたり	梅	植物
19	明治27年	春の部	鶯の畑に晝餉の夫婦かな	鶯	動物
20	明治27年	春の部	春風の屋根に烏賊干す入江かな	春風	天文
21	明治27年	春の部	朝市の跡すれて居る餘寒かな	餘寒	時候
22	明治27年	春の部	渦まくや朧月夜の龍飛崎	朧月	天文
23	明治27年	春の部	傾城の衣くれなゐに春の月	春の月	天文
24	明治27年	春の部	陽炎の畑打男すね黒し	陽炎	天文
25	明治27年	春の部	三助の月代青し花の山	花	植物
26	明治27年	春の部	その昔熊谷次郎花の山	花	植物
27	明治27年	春の部	白馬繫く傾城町の柳かな	柳	植物
28	明治27年	春の部	起きよ / \ 春ゆかんとすぬる胡蝶	行春	時候
29	明治27年	春の部	行春や我故郷へ三百里	行春	時候
30	明治27年	春の部	行春を凌雲閣に眺めけり	行春	時候
31	明治27年	春の部	去程に春も暮れけり鐘の声	暮春	時候
273	明治28年	春の部	陽炎に鍬振上ぐる男かな	陽炎	天文
275	明治28年	春の部	陽炎のそこらに行けど君見えず	陽炎	天文
276	明治28年	春の部	紅梅や几帳ほのかに衣の色	梅	植物
277	明治28年	春の部	淀みけり渦まかれけり春の水	春の水	地理
278	明治28年	春の部	大奥の衣のけはひや朧月	朧月	天文
279	明治28年	春の部	浪もなし朧月夜の外が濱	朧月	天文
280	明治28年	春の部	舟のたり / \ 兩岸の桃花燃えんとす	桃	植物
281	明治28年	春の部	春風や電線吼ゆる東海道	春風	天文
282	明治28年	春の部	菜の花や笠背負ひたる伊勢詣	菜の花	植物
283	明治28年	春の部	馬士唄ふ五十三亭日は長し	日永	時候
284	明治28年	春の部	行春をこちらも向かぬ男かな	行春	時候
285	明治28年	春の部	行春を出羽とあるなり笠の文字	行春	時候
287	明治28年	春の部	薄月の菜の花畑牛帰る	菜の花	植物
288	明治28年	春の部	朧夜のほの白き花や何の花	朧	天文
289	明治28年	春の部	月朧只むさし野の果もなし	朧月	天文
290	明治28年	春の部	朧夜のそれかとばかり水車	朧	天文
291	明治28年	春の部	潺湲と朧をくぐる野川かな	朧	天文
292	明治28年	春の部	花や / \ 恁麼の時これいかむ	花	植物
293	明治28年	春の部	里人よ我もこそ来れ花見んと	花見	人事
294	明治28年	春の部	こと問はむ汝か里の櫻いかにぞや	櫻	植物
295	明治28年	春の部	むさし野の麦二三寸小雨ふる	麦青む	植物
296	明治28年	春の部	すさましや桃花の村を鉄車ゆく	桃	植物
297	明治28年	春の部	菜の花や女首出す汽車の窓	菜の花	植物
298	明治28年	春の部	春雨の畑に何する男ども	春雨	天文
299	明治28年	春の部	一村の屋根の低さよ桃さくら	雑	雑
300	明治28年	春の部	石地蔵それよりつづく花菜かな	菜の花	植物
301	明治28年	春の部	春風の乞食つゞきぬ江戸の町	春風	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
302	明治28年	春の部	花の山かばんさげたる男かな	花	植物
303	明治28年	春の部	蝶々よ旅の記あらば見まくほし	蝶	動物
304	明治28年	春の部	或人の吃り / \ つ春暮れぬ	暮春	時候
305	明治28年	春の部	塔高しそれより高き雲雀かな	雲雀	動物
306	明治28年	春の部	澁瀬と餘寒の蝦のはねたりな	餘寒	時候
307	明治28年	春の部	からまりつ / \ 大藤の花咲きぬ	藤の花	植物
458	明治29年	春の部	石上に椿散りけり僧拾へり	椿	植物
459	明治29年	春の部	女五六酒賣る家の桃の花	桃	植物
460	明治29年	春の部	去程に李月夜の面白や	李の花	植物
461	明治29年	春の部	山かげの一本櫻咲きにけり	櫻	植物
462	明治29年	春の部	千本のさくら一度に咲きにけり	櫻	植物
463	明治29年	春の部	梅が香や月淡くして水細く	梅	植物
464	明治29年	春の部	村又村霞の中の午の鐘	霞	天文
465	明治29年	春の部	日は西へ雲雀も啼かず山畑	雲雀	動物
466	明治29年	春の部	朧夜の女物云ふ屋形船	朧	天文
467	明治29年	春の部	寺しんかん夜ほの / \ と鶯や	鶯	動物
468	明治29年	春の部	水ちよろ / \ 笕に流す椿かな	椿	植物
469	明治29年	春の部	桃咲いて馬引出す小家かな	桃	植物
470	明治29年	春の部	春三月桃紅李白酒十斗	春	時候
471	明治29年	春の部	雪隠の屋根煤びたり桃の花	桃	植物
473	明治29年	春の部	登らんせ春は楊州第一樓	春	時候
474	明治29年	春の部	舞姫の樓に上りつ梨花の月	梨の花	植物
475	明治29年	春の部	春やこよひ飽まで酒を召上れ	春	時候
476	明治29年	春の部	夕風の墓門の櫻花もなし	櫻	植物
477	明治29年	春の部	續たり紛たり土饅頭を吹く落花	落花	植物
478	明治29年	春の部	春の夜の紅樓女あり名は阿嬌	春夜	時候
479	明治29年	春の部	春の夜や繡したる閨の幕	春夜	時候
480	明治29年	春の部	炉塞いで壁の一軸哀れなる	爐塞	人事
481	明治29年	春の部	杉十丈段々に藤の花咲きぬ	藤の花	植物
482	明治29年	春の部	一面に紅白のつゝじ咲きにけり	躑躅	植物
483	明治29年	春の部	禿山やつゝじの赤きところ / \	躑躅	植物
484	明治29年	春の部	谷間の藤棧花咲きぬ	藤の花	植物
485	明治29年	春の部	藤の花淵に臨めること三尺	藤の花	植物
486	明治29年	春の部	水浅く岩白うして藤の花	藤の花	植物
10611	明治29年	春の部	松青く藤紫に水白し	藤	植物
1013	明治30年	春の部	根芹にして根の短きが口惜しく	芹	植物
1014	明治30年	春の部	梅咲いて米の飯喰ふ山家かな	梅	植物
1015	明治30年	春の部	夢みらく君が行く野の若草を	若草	植物
1016	明治30年	春の部	白魚を紫の上にまるらせよ	白魚	動物
1017	明治30年	春の部	箱根路をわが越えくれば春の風	春風	天文
1018	明治30年	春の部	霞淡く蝦夷が小島の見ゆるかな	霞	天文
1019	明治30年	春の部	よもすがら我戀すべく春さむし	春寒	時候
1020	明治30年	春の部	春の雪山鳥の尾のさら / \ と	春雪	天文
1022	明治30年	春の部	草木春にして胡女が唄ふ恨かな	春	時候
1024	明治30年	春の部	團子喰へば犬吠ゆるなり花の山	花	植物
1026	明治30年	春の部	この別れ春帆遅き恨かな	春	時候
1027	明治30年	春の部	二三人離宴に春の月を見る	春の月	天文
1028	明治30年	春の部	馬で行け萬里の春を横ぎって	春	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1029	明治30年	春の部	君が船明日桃花灘上を	桃	植物
1030	明治30年	春の部	踏破らむ落花の五十有三亭	落花	植物
1031	明治30年	春の部	炉ふさいで此曉をいざ罷らむ	爐塞	人事
1032	明治30年	春の部	恐る暮に落花の里に入らむことを	落花	植物
1033	明治30年	春の部	酒許せ奥州の春猶さむし	春	時候
1034	明治30年	春の部	堇拵りつ紫さめつ此の別れ	堇	植物
1035	明治30年	春の部	離愁とはつくしの如きものなるか	土筆	植物
1036	明治30年	春の部	春の日の落馬なんども我俳諧	春日	時候
1037	明治30年	春の部	この別已にして月朧ろなり	朧月	天文
1038	明治30年	春の部	わが旅や蒲公英三ツ四ツあれば足る	蒲公英	植物
1040	明治30年	春の部	春の夜をみめよき女二人行く	春夜	時候
1041	明治30年	春の部	花はさくら妻を娶らば陰麗花	櫻	植物
1042	明治30年	春の部	中婦弾じ少婦歌へり花の宴	花	植物
1043	明治30年	春の部	柳十里隋家の宮女恨あり	柳	植物
1044	明治30年	春の部	永き日を貧なる女物思ふ	日永	時候
1045	明治30年	春の部	春殿の蠟燭あかし楊氏の女	春	時候
1046	明治30年	春の部	美なる女木蘭の船春の水	雑	雑
1047	明治30年	春の部	朧夜の女歌へり後庭花	朧	天文
1048	明治30年	春の部	楼に上る邯鄲の女春多恨	春	時候
1049	明治30年	春の部	春酒緑り越女の金釵斜なる	春	時候
1050	明治30年	春の部	曙の御講のかすみ虎夫人	霞	天文
1051	明治30年	春の部	賤の女が春の野に出で戀すなり	春の野	地理
1052	明治30年	春の部	春の夜の神前に巫女居並べる	春夜	時候
1053	明治30年	春の部	長き日を全張る男眠りける	日永	時候
1054	明治30年	春の部	薄月の絹雪洞や春の戀	春	時候
1055	明治30年	春の部	丸太積みあげて陽炎の立つを見る	陽炎	天文
1056	明治30年	春の部	永き日やところ／＼の土方節	日永	時候
1057	明治30年	春の部	金殿や春の夜毎を鼓うつ	春夜	時候
1058	明治30年	春の部	よもすがら笛の音すなり春の城	春	時候
1059	明治30年	春の部	櫻散る此夕暮の静かさは	落花	植物
1060	明治30年	春の部	大木の櫻散ること徐ろに	落花	植物
1061	明治30年	春の部	車去て都のはづれ暮遅し	遅日	時候
1062	明治30年	春の部	長き日の東海道を二人づれ	日永	時候
1063	明治30年	春の部	大歡樂大千世界櫻かな	櫻	植物
1064	明治30年	春の部	酒足らず櫻に冠をかけて去る	櫻	植物
1065	明治30年	春の部	落椿鉄灯籠に積であり	椿	植物
1066	明治30年	春の部	杯盤や酒醒くさくら散る	落花	植物
1067	明治30年	春の部	菜の花の傍へに清き流かな	菜の花	植物
1068	明治30年	春の部	藥賣る家の椿の赤きかな	椿	植物
1069	明治30年	春の部	日當りやたんぼゝ咲ける二ツ三ツ	蒲公英	植物
1070	明治30年	春の部	切支丹の庭に真紅の花咲きぬ	花	植物
1071	明治30年	春の部	寺の池に年ふる蛙住めりとか	蛙	動物
1072	明治30年	春の部	洛陽の春に居眠る男あり	春	時候
1073	明治30年	春の部	菜の花に小さき橋を二つほど	菜の花	植物
1074	明治30年	春の部	聞説野に三千のつく／＼し	土筆	植物
1075	明治30年	春の部	春の人身細き太刀を佩いてゆく	春	時候
1076	明治30年	春の部	春遠近壁に題す一層の楼	春	時候
1077	明治30年	春の部	幕打たせ花の彼方の謠かな	花	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1079	明治30年	春の部	春の月二人并むで眺めつらむ	春の月	天文
1080	明治30年	春の部	菜の花のてふ / \ 猫の子眠て知らず	菜の花	植物
1081	明治30年	春の部	水桶にさしたる藤の花咲きぬ	藤の花	植物
1082	明治30年	春の部	里の子の鞭にするなる藤の花	藤の花	植物
1083	明治30年	春の部	道を失す大澤の藤の花を見る	藤の花	植物
1084	明治30年	春の部	わたかまる藤の花房短くて	藤の花	植物
1085	明治30年	春の部	つゝじ赤く藤紫の陳腐なる	躑躅	植物
1086	明治30年	春の部	雑木原に偶々つゝじあるがよし	躑躅	植物
1087	明治30年	春の部	蒲公英の莖の長さがほうけたり	蒲公英	植物
1088	明治30年	春の部	矮なるは最も赤きつゝじかな	躑躅	植物
1089	明治30年	春の部	水涸れ水車猶存す藤の花	藤の花	植物
1925	明治31年	春の部	東門を犬と連立つ日暖か	暖	時候
1926	明治31年	春の部	犬追へば鶏飛上る桃の枝	桃	植物
1927	明治31年	春の部	二三人梅花書屋に会したる	梅	植物
1928	明治31年	春の部	卓上や主客坐につく梅の花	梅	植物
1929	明治31年	春の部	主と客と漢魏六朝梅の花	梅	植物
1930	明治31年	春の部	家疎らにして梅やうやく多し	梅	植物
1931	明治31年	春の部	獨り樓に上る梅の花月夜	梅	植物
1932	明治31年	春の部	白梅や雲烟龍蛇墨一斗	梅	植物
1933	明治31年	春の部	市に入れば梅の木小さし塀の内	梅	植物
1934	明治31年	春の部	梅の村に仕へずして老いし住む	梅	植物
1935	明治31年	春の部	梅林に物の音をきく社かな	梅	植物
1936	明治31年	春の部	白梅の白きを愛すかほりかな	梅	植物
1937	明治31年	春の部	郡太守賢にして土を愛す梅の花	梅	植物
1938	明治31年	春の部	晴天に昼の月傾きぬいかのぼり	凧	人事
1939	明治31年	春の部	壁に飛ばす一斗の墨や梅の花	梅	植物
1940	明治31年	春の部	姉妹や堇咲く野に睦しき	堇	植物
1941	明治31年	春の部	山陰に日暮るゝ遅し春の駒	春の駒	動物
1942	明治31年	春の部	日の暮るゝ遅き牧場や春の駒	春の駒	動物
1943	明治31年	春の部	誤て古道行けば雉子鳴きぬ	雉子	動物
1944	明治31年	春の部	野路山路鶯とところゝかな	鶯	動物
1945	明治31年	春の部	戀すべく里に出でたり寺の猫	猫の戀	動物
1946	明治31年	春の部	淺ましく猫の恋する声高し	猫の戀	動物
1947	明治31年	春の部	戀合ふやいよゝ近づくと猫の聲	猫の戀	動物
1948	明治31年	春の部	戀中の何れも黒き猫なりし	猫の戀	動物
1949	明治31年	春の部	故里や猫恋すべく長じたり	猫の戀	動物
1950	明治31年	春の部	飯だこの果敢なかりける最期かな	飯だこ	動物
1951	明治31年	春の部	飯だこのこれより大なるはなし	飯だこ	動物
1952	明治31年	春の部	二三間雉子鳴き飛で草に入る	雉子	動物
1953	明治31年	春の部	野は焼けてきぎす鳴くなり雨の中	雉子	動物
1954	明治31年	春の部	前山にきぎす鳴くなり渡し舟	雉子	動物
1955	明治31年	春の部	岡の家畑もありて雲雀なく	雲雀	動物
1956	明治31年	春の部	川沿や青麦畑を春の風	春風	天文
1957	明治31年	春の部	回文の錦織出す春の風	春風	天文
1958	明治31年	春の部	雁帰る昼とぞしたる小村かな	帰る雁	動物
1959	明治31年	春の部	宿とりて二階に居れば雁の行く	帰る雁	動物
1960	明治31年	春の部	驛尽きて吾は南し雁北す	帰る雁	動物
1961	明治31年	春の部	別荘の月に梅見る主客かな	梅見	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1962	明治31年	春の部	春雨や夜密かに泣く娼家の子	春雨	天文
1963	明治31年	春の部	杼を停め帰雁の雲に看入る哉	帰る雁	動物
1964	明治31年	春の部	驛せはし帰る雁がね來るつばめ	雑	雑
1965	明治31年	春の部	花菜すこしてふ / \ 契浅からず	蝶	動物
1966	明治31年	春の部	蛇穴を出づ半して眠りある	蛇穴を出る	動物
1967	明治31年	春の部	石暖かに蛇の出でたる氣はひあり	蛇穴を出る	動物
1968	明治31年	春の部	大きうて歌も得よまぬ蛙かな	蛙	動物
1969	明治31年	春の部	河上や吹き来る風に梅が香す	梅	植物
1970	明治31年	春の部	梅が香の水を吹き来る夜船かな	梅	植物
1971	明治31年	春の部	客を得つ茗荷たけを探る裏の畑	茗荷竹	植物
1972	明治31年	春の部	茗荷たけを得べくと妻は裏にいつ	茗荷竹	植物
1973	明治31年	春の部	若艸を茵となしつ物語	若草	植物
1974	明治31年	春の部	露の臺の苦きを愛す朝の膳	露の臺	植物
1975	明治31年	春の部	白うして長き根芹の雫かな	芹	植物
1976	明治31年	春の部	人稀に梅猶早き山路かな	梅	植物
1977	明治31年	春の部	山路来て野を暖かに鞍の上	暖	時候
1978	明治31年	春の部	村店に野路の花見の人数かな	花見	人事
1979	明治31年	春の部	依々として柳の枝を放たざる	柳	植物
1980	明治31年	春の部	庭先に陽炎立つや雨あがり	陽炎	天文
1981	明治31年	春の部	膳出でぬ芽独活白魚若夫婦	雑	雑
1982	明治31年	春の部	口を閉ぢ田螺は遂に物いはず	田螺	動物
1983	明治31年	春の部	白魚に箸は春慶臭きかな	白魚	動物
1984	明治31年	春の部	狼烟あぐれば褒姒が笑ふ春の風	春風	天文
1985	明治31年	春の部	古臼の水温むべく日南す	水温む	地理
1986	明治31年	春の部	朧夜を李獅々が家に行幸哉	朧	天文
1987	明治31年	春の部	出代に居残りし女主ぶり	出代	人事
1988	明治31年	春の部	出代や夜更けて語る台所	出代	人事
1989	明治31年	春の部	隣国の使者の一行かすみけり	霞	天文
1990	明治31年	春の部	梅林を出て、北斗を拜すかな	梅	植物
1991	明治31年	春の部	嶺北に村あり雨に寒食す	寒食	人事
1992	明治31年	春の部	江北の梅の木古くして疎なり	梅	植物
1993	明治31年	春の部	浦東風や船に残んの灯が見ゆる	東風	天文
1994	明治31年	春の部	江南や梅花淡月簫の音	梅	植物
1995	明治31年	春の部	琴に挑む女かほよし桃の花	桃	植物
1996	明治31年	春の部	長き日の和船繕ふ濱辺かな	日永	時候
1997	明治31年	春の部	根岸菴に春夜の鐘や東叡山	春夜	時候
1998	明治31年	春の部	姫君の東下りや春の風	春風	天文
1999	明治31年	春の部	白き馬の東に飛びぬ梅月夜	梅	植物
2000	明治31年	春の部	春の水滾々として東流す	春の水	地理
2001	明治31年	春の部	人中に南無佛と申す櫻哉	櫻	植物
2002	明治31年	春の部	南海に眞珠採るべく日暖か	暖	時候
2003	明治31年	春の部	春さむし北方には、き星を見る	春寒	時候
2004	明治31年	春の部	昭君の北に行く日をつばめ来る	燕	動物
2005	明治31年	春の部	桃咲いて美なる浣紗の女かな	桃	植物
2006	明治31年	春の部	三月三日妓を宰相の家に観る	上巳	人事
2007	明治31年	春の部	青柳の欄を拂て雫せり	柳	植物
2008	明治31年	春の部	畑中の一本柳暮れにけり	柳	植物
2009	明治31年	春の部	雨暖かに柳烟るや長き土手	柳	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2010	明治31年	春の部	高張や旅館の柳しだれつゝ	柳	植物
2011	明治31年	春の部	退朝や御講の柳静かにて	柳	植物
2012	明治31年	春の部	雨一ト日柳に暗き小窓かな	柳	植物
2013	明治31年	春の部	鞍壺や柳かぶさる門せまみ	柳	植物
2014	明治31年	春の部	御手洗の水にしだるゝ柳か那	柳	植物
2015	明治31年	春の部	瘤高く幹くねりたる柳か那	柳	植物
2016	明治31年	春の部	僧房に碁客相對す日の永き	日永	時候
2017	明治31年	春の部	商人と連れて鄙路の日は長し	日永	時候
2019	明治31年	春の部	病みやせて出代の日の部屋を出る	出代	人事
2020	明治31年	春の部	日麗か眼病院の色がらす	麗	時候
2021	明治31年	春の部	薬にせまく田螺殻焼く裏の畑	田螺	動物
2022	明治31年	春の部	痘除けの赤き幣吹く春の風	春風	天文
2023	明治31年	春の部	くすし申さく白魚の如きを少し召せ	白魚	動物
2024	明治31年	春の部	菴主病むで菊の根分くる人もなし	菊根分	人事
2025	明治31年	春の部	木瓜咲くや日たゞ閒なる村の醫者	木瓜	植物
2026	明治31年	春の部	風引いて月に簾下ろす梨の花	梨の花	植物
2027	明治31年	春の部	薬賣刀を舞はず日永か那	日永	時候
2028	明治31年	春の部	ちご病みて雛に親しむ飽き易き	雛祭	人事
2029	明治31年	春の部	里見えて春の社日の太鼓かな	社日	時候
2030	明治31年	春の部	菜の花や門鎖したる避病院	菜の花	植物
2031	明治31年	春の部	買て放つ亀の子活きぬ春の川	春の川	地理
2032	明治31年	春の部	淡雪の消えも入りたき病める戀	淡雪	天文
2033	明治31年	春の部	出代を孕める人の母訪ひぬ	出代	人事
2034	明治31年	春の部	ひとり病むで灯ともす春の夕寒し	春宵	時候
2035	明治31年	春の部	山吹や水に映りし病める顔	山吹	植物
2036	明治31年	春の部	薬賣る店にさし込む春日かな	春の日	天文
2037	明治31年	春の部	腫物の薄痒くなりぬ春の風	春風	天文
2038	明治31年	春の部	はては乱舞酒腥き落花哉	落花	植物
2039	明治31年	春の部	病む人の粥少し残り春さむし	春寒	時候
2040	明治31年	春の部	陽炎や漢薬植ゑし医者之庭	陽炎	天文
2041	明治31年	春の部	春の夜の産声聞ゆ隣かな	春夜	時候
2042	明治31年	春の部	麗かや人参つむで高麗船が	麗	時候
2043	明治31年	春の部	薬臭き人に逢ひけり春の宵	春宵	時候
2044	明治31年	春の部	師の坊の塞がざる爐に病みわびぬ	爐塞	人事
2046	明治31年	春の部	百艸を嘗め試みつ春の風	春風	天文
2047	明治31年	春の部	永き日の碁石を下すこと遅し	日永	時候
2048	明治31年	春の部	山寺の木魚も絶えて日の永き	日永	時候
2049	明治31年	春の部	永き日の沖に魚つる獨か那	日永	時候
2050	明治31年	春の部	野に出でゝ讚美歌唄ふ日永哉	日永	時候
2052	明治31年	春の部	凧の糸柱に繋ぐ響かな	凧	人事
2053	明治31年	春の部	賣れ残る武者繪の凧の物憂かり	凧	人事
2054	明治31年	春の部	ありたけの糸伸ばしたり凧	凧	人事
2055	明治31年	春の部	大凧の川を越え来しうなり哉	凧	人事
2056	明治31年	春の部	風ゆるくせんすべもなし凧	凧	人事
2057	明治31年	春の部	とかくして大凧打あげぬ	凧	人事
2058	明治31年	春の部	宿とりて二階に居れば凧	凧	人事
2059	明治31年	春の部	鄙に入て日は猶高し凧	凧	人事
2060	明治31年	春の部	切凧の骨徒らに太かりし	凧	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2061	明治31年	春の部	凧の音の聞えずなりて日は暮れぬ	凧	人事
2062	明治31年	春の部	縁日に求めし梅のはや散りぬ	梅	植物
2063	明治31年	春の部	雪解に不動明王突立ちぬ	雪解	地理
2064	明治31年	春の部	一門をあつめて瀬のまつりか那	瀬の祭	時候
2065	明治31年	春の部	涅槃会のすむで涅槃像さびし	涅槃會	人事
2066	明治31年	春の部	馬市のまくさ飛散る春の風	春風	天文
2067	明治31年	春の部	門前に來鳴く鶯来ずなりぬ	鶯	動物
2069	明治31年	春の部	朧夜を茸毛の駒の魁けぬ	朧	天文
2070	明治31年	春の部	心せよ餘寒に風を引きやすし	餘寒	時候
2071	明治31年	春の部	盆梅のこぼれて歌書の朧か那	盆梅	植物
2073	明治31年	春の部	かりすまひして古雛かざりける	雛祭	人事
2074	明治31年	春の部	乙女子の雛に團居す物語	雛祭	人事
2075	明治31年	春の部	本箱や物憂かるべく雛古りし	雛祭	人事
2076	明治31年	春の部	雛の間に蠟燭ともす禿か那	雛祭	人事
2077	明治31年	春の部	雛市の灯ともす頃を雨がふる	雛市	人事
2078	明治31年	春の部	人戀し雛包みたる古錦	雛祭	人事
2079	明治31年	春の部	雛の間に伯母と寐し子や絹行灯	雛祭	人事
2080	明治31年	春の部	今更に雛に戀する身となりぬ	雛祭	人事
2081	明治31年	春の部	雛市には雛買はまく思ふか那	雛市	人事
2082	明治31年	春の部	雛棚に巣さびしき住居か那	雛祭	人事
2084	明治31年	春の部	闇の夜や沼に映りし野火の影	野山焼	人事
2085	明治31年	春の部	物の香や焼けし野を吹く弱き風	野山焼	人事
2086	明治31年	春の部	野を焼いて山焼けかゝる風強し	野山焼	人事
2087	明治31年	春の部	湖の上を焼野の烟這ひかゝる	野山焼	人事
2088	明治31年	春の部	二階から夜の野を焼く火が見えし	野山焼	人事
2089	明治31年	春の部	藪陰に野火のくすぶる小雨の日	野山焼	人事
2090	明治31年	春の部	野も山も焼けて夕を雨となる	野山焼	人事
2091	明治31年	春の部	一ト処野焼の烟立ちのぼる	野山焼	人事
2092	明治31年	春の部	夜に入りてはげしうなりし野火の風	野山焼	人事
2093	明治31年	春の部	人さはぐ野火官山に移るべう	野山焼	人事
2095	明治31年	春の部	穴を出るや蛇忽ちに見えずなり	蛇穴を出る	動物
2096	明治31年	春の部	試に穴を出でたる蛇ならし	蛇穴を出る	動物
2097	明治31年	春の部	穴に憂く出つべくと蛇のうき心	蛇穴を出る	動物
2098	明治31年	春の部	蛇穴を出づべく少し早かりし	蛇穴を出る	動物
2099	明治31年	春の部	風腥くうはばみ穴を出でけらし	蛇穴を出る	動物
2100	明治31年	春の部	出でし穴を去るべく蛇の愁あり	蛇穴を出る	動物
2101	明治31年	春の部	穴を出でゝ蛇眠るべく草若し	蛇穴を出る	動物
2102	明治31年	春の部	穴を出でゝ蛇人を見る餘所心	蛇穴を出る	動物
2103	明治31年	春の部	蛇出づべく穴にさし込む朝日哉	蛇穴を出る	動物
2104	明治31年	春の部	穴を出でし蛇に悔あり寒き雨	蛇穴を出る	動物
2105	明治31年	春の部	親蛇が穴を出でたり子泣くらむ	蛇穴を出る	動物
2106	明治31年	春の部	穴を出づる咫尺にして眠る蛇	蛇穴を出る	動物
2107	明治31年	春の部	蛇穴を出で孔子容れられず	蛇穴を出る	動物
2108	明治31年	春の部	蛇穴を出づ重耳主従行く	蛇穴を出る	動物
2109	明治31年	春の部	楚に囚はれ穴を出でたる蛇を見る	蛇穴を出る	動物
2110	明治31年	春の部	蛇穴を出づるや梁甫吟起る	蛇穴を出る	動物
2111	明治31年	春の部	蛇穴を出づる時遠人家を懐ふ	蛇穴を出る	動物
2112	明治31年	春の部	国破れ蛇穴を出づ城春なり	蛇穴を出る	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2113	明治31年	春の部	雛店の前に花賣る翁か那	雛市	人事
2114	明治31年	春の部	古雛の吾宿わびし人も來ず	雛祭	人事
2115	明治31年	春の部	雛市にとあるを買はまほしかりし	雛市	人事
2116	明治31年	春の部	昨日焼きし野を土臭き風が吹く	野山焼	人事
2118	明治31年	春の部	花に酔ふて乞食女に戯るゝ	花	植物
2119	明治31年	春の部	紫の霞棚引く宮の森	霞	天文
2120	明治31年	春の部	簾捲いて琴に對へば春の月	春の月	天文
2121	明治31年	春の部	田螺なく背戸に落ちたり三日の月	田螺	動物
2123	明治31年	春の部	見送るがふりすてがたき柳か那	柳	植物
2125	明治31年	春の部	賀びや雛まるらす桃の宿	桃	植物
2126	明治31年	春の部	夫婦して今日も打つなり寺の畑	畑打ち	人事
2127	明治31年	春の部	藏普請濟むで辛夷の花咲きぬ	辛夷	植物
2128	明治31年	春の部	連翹を啄みこぼし鳥飛びぬ	連翹	植物
2129	明治31年	春の部	なかなか長閑けき日なり山の寺	長閑	時候
2131	明治31年	春の部	異國船に鳴の子走る春の風	春風	天文
2132	明治31年	春の部	島守が館の旗や春の風	春風	天文
2133	明治31年	春の部	立てかけし琴の響や春の風	春風	天文
2134	明治31年	春の部	浅草や喇叭筆築春の風	春風	天文
2135	明治31年	春の部	春風の野に小便す二人づれ	春風	天文
2136	明治31年	春の部	造船の鉋屑ちる春の風	春風	天文
2137	明治31年	春の部	東郊の春風二十四番か那	春風	天文
2138	明治31年	春の部	春風の沖の方より白帆か那	春風	天文
2139	明治31年	春の部	春風や妹がひれふる松浦湯	春風	天文
2140	明治31年	春の部	春風の道尽て寺の門に入る	春風	天文
2142	明治31年	春の部	管絃や春風吹満つ十二樓	春風	天文
2143	明治31年	春の部	造作の檜匂ふや春の風	春風	天文
2144	明治31年	春の部	縁に出でゝ障子張り居るや春の風	春風	天文
2145	明治31年	春の部	漣や春風渡る昆明池	春風	天文
2146	明治31年	春の部	春風や笹舟放つ池の面	春風	天文
2147	明治31年	春の部	梅遅く春風寒き伽藍か那	春風	天文
2148	明治31年	春の部	春風の吹やむ夕や花くもり	春風	天文
2149	明治31年	春の部	少しくもり春風寒し梅の道	春風	天文
2150	明治31年	春の部	馬に乗る追分村や春の風	春風	天文
2151	明治31年	春の部	春風や片側町の紺暖簾	春風	天文
2152	明治31年	春の部	洞穴に浪出つ入りつ日の永き	日永	時候
2153	明治31年	春の部	春の宵あけの玉垣灯のもるゝ	春宵	時候
2155	明治31年	春の部	永き日の馬まばらなる牧場か那	日永	時候
2156	明治31年	春の部	拜領の馬繋ぐ庭のさくらか那	櫻	植物
2157	明治31年	春の部	馬蹄軽く江南を春の風吹くよ	春風	天文
2158	明治31年	春の部	日は永く邯鄲の少年馬を馳す	日永	時候
2159	明治31年	春の部	厩から馬首出す花菜か那	菜の花	植物
2160	明治31年	春の部	春の夜の陣に琵琶きく馬上か那	春夜	時候
2161	明治31年	春の部	馬に乗て温泉の村に入るや春の雨	春雨	天文
2162	明治31年	春の部	春風や伶人馬に乗て行く	春風	天文
2163	明治31年	春の部	瘦馬に母乗せてゆく涅槃か那	涅槃會	人事
2164	明治31年	春の部	馬上にして槍の穂洗ふ柳か那	柳	植物
2165	明治31年	春の部	馬を下りて刃を洗ふ柳か那	柳	植物
2166	明治31年	春の部	春月や画ける欄間彫れる棟	春の月	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2167	明治31年	春の部	柳折り柳折り春風路傍の情	春風	天文
2168	明治31年	春の部	坐につけば紅白のさくら餅が出る	桜餅	人事
2169	明治31年	春の部	柳ありて揚弓店と灯をともす	柳	植物
2170	明治31年	春の部	王城の北や上野の森おぼろ	朧	天文
2171	明治31年	春の部	肉くれなゐ點心みとり春の宵	春宵	時候
2172	明治31年	春の部	春閨の蝶や白馬の人遠く	蝶	動物
2173	明治31年	春の部	六法やくるわのさくら男伊達	櫻	植物
2174	明治31年	春の部	遊廓に異人乗込む春の月	春の月	天文
2175	明治31年	春の部	朧夜の廓逃げ来し二人か那	朧	天文
2176	明治31年	春の部	二三人廓出てゆく春の雨	春雨	天文
2177	明治31年	春の部	春さめや傾城部の小酒もり	春雨	天文
2178	明治31年	春の部	吉原の夜さくらを見るや田舎人	櫻	植物
2179	明治31年	春の部	花の廓若き男のなぶられし	花	植物
2180	明治31年	春の部	雨の廓春夢正にこまやかなり	春の夢	人事
2181	明治31年	春の部	客を送る柳のかけや京言葉	柳	植物
2182	明治31年	春の部	花に酔ふて遊女見に行く人数か那	花	植物
2183	明治31年	春の部	廓見ゆ菜の花街道横に折れ	菜の花	植物
2184	明治31年	春の部	三階や川に沿へる廓の春風樓	春風	天文
2185	明治31年	春の部	川千鳥若き遊女の京言葉	千鳥	動物
2186	明治31年	春の部	女連れて廓のさくら見に出でし	櫻	植物
2187	明治31年	春の部	入口の青柳見ゆる廓かな	柳	植物
2188	明治31年	春の部	心中のさはぎに廓あけやすき	短夜	時候
2190	明治31年	春の部	鬨や玉種うる山の春の雲	春の雲	天文
2191	明治31年	春の部	春の夜の汐みち来るや磯くもり	春夜	時候
2192	明治31年	春の部	巢にこもる孕雀のなやみか那	孕雀	動物
2193	明治31年	春の部	うらゝかや寝殿の上を舞へる鶯	麗	時候
2194	明治31年	春の部	東京のまつりを語り畑打つ	畑打ち	人事
2195	明治31年	春の部	菜の花に大根の花のひよろ長き	雑	雑
2196	明治31年	春の部	萩垣の萩の芽もえつ茶のけふり	萩若葉	植物
2197	明治31年	春の部	蛤の籠に蓋すや磯のくさ	蛤	動物
2198	明治31年	春の部	垂跡や花の菩薩の人ばかり	花祭	人事
2199	明治31年	春の部	故郷にある日炬燵を塞きけり	炬燵塞ぐ	人事
2201	明治31年	春の部	家に帰れば早巣立ちけり燕の子	燕の子	動物
2202	明治31年	春の部	頷赤くはしき燕の夫婦か那	燕	動物
2203	明治31年	春の部	堂上に巣くふべく乙鳥飛入りぬ	燕	動物
2204	明治31年	春の部	焼跡や乙鳥飛びかふ日もすがら	燕	動物
2205	明治31年	春の部	棟の上に雨の乙鳥のならびか那	燕	動物
2206	明治31年	春の部	入舩やつばくらめ飛ぶ港町	燕	動物
2207	明治31年	春の部	乙鳥や江戸参勤の諸大名	燕	動物
2208	明治31年	春の部	此頃や洛陽に入るつばくらめ	燕	動物
2209	明治31年	春の部	三階や昼の廓のつばくらめ	燕	動物
2210	明治31年	春の部	謫せられて嶋に燕をなつかしむ	燕	動物
2212	明治31年	春の部	五六人歌題えらびつ春の雨	春雨	天文
2214	明治31年	春の部	女坂を上れば天神の春の月	春の月	天文
2216	明治31年	春の部	椿落つ地水火風空椿落つ	椿	植物
2217	明治31年	春の部	もろく落ちし大輪の赤椿か那	椿	植物
2218	明治31年	春の部	物かいて居れば小庭に蝶が来る	蝶	動物
2219	明治31年	春の部	山吹にぬれて出でたり寺のちご	山吹	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2220	明治31年	春の部	山吹の歌知る茶屋の女か那	山吹	植物
2222	明治31年	春の部	村熟を晝鎖しあり鳴蛙	蛙	動物
2223	明治31年	春の部	蛙鳴く吉原田圃小提灯	蛙	動物
2224	明治31年	春の部	其中に声高き蛙遠き哉	蛙	動物
2225	明治31年	春の部	聴蛙亭の石灯籠に灯をともす	蛙	動物
2226	明治31年	春の部	野の店や昼の蛙の鳴きやまず	蛙	動物
2227	明治31年	春の部	小蛙の昼さはがしき宿場か那	蛙	動物
2228	明治31年	春の部	蛙祭る祠のうしろ蛙鳴	蛙	動物
2229	明治31年	春の部	小蛙や稍々ありて鳴く大蛙	蛙	動物
2230	明治31年	春の部	雲低れて遠方に鳴く蛙哉	蛙	動物
2231	明治31年	春の部	闇々と怒れる蛙雲を吐く	蛙	動物
2232	明治31年	春の部	ひとゝころ蛙鳴きやまず虹出でぬ	蛙	動物
2234	明治31年	春の部	女生徒の蚕飼ふたる一室か那	蚕	動物
2235	明治31年	春の部	蚕飼ふ此頃夫婦家にあり	蚕	動物
2236	明治31年	春の部	起きて見れば蚕の村に灯がともる	蚕	動物
2237	明治31年	春の部	大勢や庄屋に蚕飼ふ女	蚕	動物
2238	明治31年	春の部	桑の香や蚕の部屋のうす暗き	蚕	動物
2239	明治31年	春の部	妻となり夫となりぬ蚕飼ふ	蚕	動物
2240	明治31年	春の部	蚕かふ背戸を出てゆく小唄哉	蚕	動物
2241	明治31年	春の部	故郷に帰れば妻は蚕かひか那	蚕	動物
2242	明治31年	春の部	しんかんと蚕眠れる昼間か那	蚕	動物
2243	明治31年	春の部	養蚕所の二階に見えし女ども	蚕	動物
2244	明治31年	春の部	養蚕に雇はれて居るいとこづれ	蚕	動物
2245	明治31年	春の部	勝手より蚕見に來し隠居か那	蚕	動物
2246	明治31年	春の部	養蚕がすむで祭ある小村か那	蚕	動物
2247	明治31年	春の部	原中に堀めぐらせり養蚕所	蚕	動物
2248	明治31年	春の部	試に蚕かひたる世帯か那	蚕	動物
2249	明治31年	春の部	行く程に都のはづれ蚕時	蚕	動物
2251	明治31年	春の部	兄弟が訟の庭や棟棠華	棟	植物
2252	明治31年	春の部	行春を流罪と決す便か那	行春	時候
2253	明治31年	春の部	耕して甘棠を謳ふ野人か那	耕	人事
2254	明治31年	春の部	百姓の家に公事さく辛夷か那	辛夷	植物
2255	明治31年	春の部	石だゝみ状師が家の柳か那	柳	植物
2256	明治31年	春の部	役人の衣更へたり決断所	更衣	人事
2257	明治31年	春の部	大庭に水打つ天下の決断所	打水	人事
2258	明治31年	春の部	訟を断ず秋霜の如きか那	秋の霜	天文
2259	明治31年	春の部	名奉行のしのびありきす村の秋	秋	時候
2260	明治31年	春の部	竹にはさむ直訴の状や獵の道	狩	人事
10656	明治31年	春の部	梅が香やお京は六角御幸町	梅	植物
10585	明治31年	春の部	踏迷古道行くや百千鳥	百千鳥	動物
2713	明治32年	春の部	青空や松の梢のいかのぼり	凧	人事
2715	明治32年	春の部	むかしぶりや子の日の御幸絵巻物	子の日の遊び	人事
2716	明治32年	春の部	夕立に飛龍を描く墨はねし	夕立	天文
2717	明治32年	春の部	眉を描く京の女や秋海棠	秋海棠	植物
2718	明治32年	春の部	棧や画けるが如き蜀の秋	秋	時候
2719	明治32年	春の部	大なる武者繪の凧のうなり哉	凧	人事
2720	明治32年	春の部	菊咲くや古き繪を見る奈良の寺	菊	植物
2721	明治32年	春の部	絵具皿に陽炎の立つ写生哉	陽炎	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2722	明治32年	春の部	奉納の繪馬かつぎ行く春の風	春風	天文
2723	明治32年	春の部	満開の牡丹画きし絹地か那	牡丹	植物
2724	明治32年	春の部	墨の香や素縑に画く梅の花	梅	植物
2726	明治32年	春の部	お小姓の戀せられたる櫻か那	櫻	植物
2727	明治32年	春の部	女唄ふ蝦夷が小島や草蒨ゆる	草蒨	植物
2728	明治32年	春の部	牛曳いて出るや小村の桃日和	桃	植物
2729	明治32年	春の部	よき幟ほしがる小供心か那	幟	人事
2730	明治32年	春の部	小意気なる藝者通りぬ門涼み	納涼	人事
2731	明治32年	春の部	小流や野菜花さく風呂の月	雑	雑
2732	明治32年	春の部	等閑や小草花咲く裏の道	草花	植物
2733	明治32年	春の部	寒潭に小さき月を印したる	寒	時候
2734	明治32年	春の部	寒垢離を行ず小兵の男哉	寒垢離	人事
2735	明治32年	春の部	小波や寒日うすき山の池	寒	時候
2737	明治32年	春の部	海苔粗朶に足引搔かん女の子	海苔	植物
2738	明治32年	春の部	冴返る塗縁をふむ跣足かな	冴返	時候
2739	明治32年	春の部	踏青の足もよごれぬ日和かな	踏青	人事
2740	明治32年	春の部	春の宵足に温泉をそゝぎけり	春宵	時候
2741	明治32年	春の部	若草に鶏の子の足かくれけり	若草	植物
2742	明治32年	春の部	散る花や毛だらけの足踏ばす	落花	植物
2743	明治32年	春の部	陽炎や岩が根ぬらす足の跡	陽炎	天文
2744	明治32年	春の部	ぬるむ水足の甲越すかち渉り	水温む	地理
2746	明治32年	春の部	沐浴して鏡に向ふ桃の花	桃	植物
2747	明治32年	春の部	芽をふきし傾城部屋の柳か那	柳	植物
2748	明治32年	春の部	小屏風に春の灯のほのあかき	春燈	人事
2749	明治32年	春の部	春雨や傾城部屋の小行灯	春雨	天文
2750	明治32年	春の部	送り出て柳に袖をかくしけり	柳	植物
2751	明治32年	春の部	傾城の梅の紅きをめづるかな	梅	植物
2752	明治32年	春の部	傾城の柳をくぐるともし哉	柳	植物
2753	明治32年	春の部	蠟燭や金釵斜に春の宴	春	時候
2754	明治32年	春の部	かんばしき酒に酔ひたり春の宴	春	時候
2755	明治32年	春の部	小屏風や念佛幽かに春の雨	春雨	天文
2757	明治32年	春の部	神立たす天浮橋うらゝかに	麗	時候
2758	明治32年	春の部	月の梅橋に人語の響かな	梅	植物
2759	明治32年	春の部	人去て橋は柳に暮れんとす	柳	植物
2760	明治32年	春の部	鄙路行くや土橋にもゆる草日和	草蒨	植物
2761	明治32年	春の部	藪入や橋の袂の乳母が店	藪入	人事
2762	明治32年	春の部	行過ぎし衣の匂や橋おぼろ	朧	天文
2763	明治32年	春の部	満汐に橋洗はれし涼しさよ	涼し	時候
2764	明治32年	春の部	唐様や白蓮房に架けし橋	蓮	植物
2765	明治32年	春の部	錫杖の石橋渡る雲の峯	雲の峰	天文
2766	明治32年	春の部	谷川や秋の雲見る丸木橋	秋の雲	天文
2768	明治32年	春の部	かしこまる烏帽子尊し梅の花	梅	植物
2769	明治32年	春の部	神の井に烏帽子を拂ふ柳かな	柳	植物
2770	明治32年	春の部	樹の下の草緑りなり春の雪	春雪	天文
2771	明治32年	春の部	青草にはぢかれにけり春の雪	春雪	天文
2772	明治32年	春の部	出て行くや沈丁臭き寺のちご	沈丁花	植物
2773	明治32年	春の部	紅梅の紅きを愛づる人もあり	梅	植物
2774	明治32年	春の部	泥を出て田螺見てゐる山の雲	田螺	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2775	明治32年	春の部	門川に田螺鳴くべき曇りかな	田螺	動物
2776	明治32年	春の部	大方の雛飾りし二日哉	雛祭	人事
2777	明治32年	春の部	雛買ひに連立出でしめをと哉	雛市	人事
2779	明治32年	春の部	滝の音に春日間なる對坐哉	春日	時候
2780	明治32年	春の部	畑中や十二社詣春の風	春風	天文
2781	明治32年	春の部	湛えては松が根ひたす春の水	春の水	地理
2782	明治32年	春の部	土手の日や古葉を搔けば草萌えし	草萌	植物
2783	明治32年	春の部	畑打の人を喚ぶなり暮の道	畑打ち	人事
2784	明治32年	春の部	麗かの水を渡りぬ美なる哉	麗	時候
2785	明治32年	春の部	清人のよき衣着たる柳か那	柳	植物
2786	明治32年	春の部	灯を持って女見えたり春の宿	春	時候
2787	明治32年	春の部	春の日の虹あらはれぬ滝しぶき	春の日	天文
2788	明治32年	春の部	此頃の日和頼もし萌ゆる草	草萌	植物
2790	明治32年	春の部	畑打やものなつかしき話振	畑打ち	人事
2791	明治32年	春の部	逢着し得たり彼岸の焼豆腐	彼岸	人事
2792	明治32年	春の部	物詣彼岸の雲の尊とかり	彼岸	人事
2793	明治32年	春の部	春の水十二叢祠を繞りけり	春の水	地理
2794	明治32年	春の部	碁客相逢ふて十二社の暮遅き	遅日	時候
2795	明治32年	春の部	雉打て邯鄲の市に帰る哉	雉子	動物
2796	明治32年	春の部	氷解けて淵となりたる巖かな	氷解	地理
2797	明治32年	春の部	いさゝかの花菜見出でし山路哉	菜の花	植物
2798	明治32年	春の部	畑打や去年の債を語合ふ	畑打ち	人事
2799	明治32年	春の部	白魚や水打そぐ籃の草	白魚	動物
2801	明治32年	春の部	鞦韆に鶏鳴いてゐる田舎哉	鞦韆	人事
2802	明治32年	春の部	岩鼻に蕨も取らぬひとりかな	蕨	植物
2803	明治32年	春の部	竹に近く家を移しぬ竹の秋	竹の秋	植物
2804	明治32年	春の部	はらからの列見を競ふかざし哉	櫻	植物
2805	明治32年	春の部	摘草の茅花もまじりこぼれけり	摘草	人事
2806	明治32年	春の部	妻機を下らず燕堂に巣くふ	燕	動物
2807	明治32年	春の部	賜や錦させゆく鶏合	鶏合	人事
2808	明治32年	春の部	てふ / \ の物思ふらん小さき胸	蝶	動物
2809	明治32年	春の部	門川に鍋炭流る温みかな	暖	時候
2810	明治32年	春の部	やゝ遅き末黒芒の芽ばへかな	末黒の芒	植物
2811	明治32年	春の部	佛菩薩大千世界花盛り	花	植物
2813	明治32年	春の部	玉碗や美酒を盛り来る桃の花	桃	植物
2814	明治32年	春の部	桃の村を出づれば漢の代となりぬ	桃	植物
2815	明治32年	春の部	曲水や桃盛りなる酔心地	桃	植物
2816	明治32年	春の部	桃の岸に流れ寄りけり古き椀	桃	植物
2817	明治32年	春の部	白桃の蒼勝なり寒食す	寒食	人事
2818	明治32年	春の部	満朝の小人原や桃李	雑	雑
2819	明治32年	春の部	桃の枝を賜つて朝を罷るかな	桃	植物
2820	明治32年	春の部	位低く児孫に富めり桃の花	桃	植物
2821	明治32年	春の部	谷深く平家の末や桃の村	桃	植物
2822	明治32年	春の部	桃咲いて帝夜毎の微行かな	桃	植物
2824	明治32年	春の部	根を分けて菊に黄金を給はりし	菊根分	人事
2825	明治32年	春の部	人泊めて菊の根分くる旦か那	菊根分	人事
2826	明治32年	春の部	小童の菊の根分に侍りし	菊根分	人事
2827	明治32年	春の部	暮の雨菊の白根のこぼれかな	菊根分	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2828	明治32年	春の部	根分すと菊園に出づ荒れしかな	菊根分	人事
2829	明治32年	春の部	帰省して一ト日は菊の根を分けし	菊根分	人事
2830	明治32年	春の部	市人の菊の根分や銭ほしき	菊根分	人事
2831	明治32年	春の部	白髪 <small>の</small> 菊の根分に召されけり	菊根分	人事
2832	明治32年	春の部	根も分けず菊に荒れたり古き庭	菊根分	人事
2833	明治32年	春の部	根分して菊に故事など文を見る	菊根分	人事
2835	明治32年	春の部	使しててふ / \ 神と語るかな	蝶	動物
2837	明治32年	春の部	麗かの繡したり美なる雲	麗	時候
2839	明治32年	春の部	町中に春の埃りや女連れ	春塵	天文
2841	明治32年	春の部	日に疎き梨の蒼や茶のけふり	梨の花	植物
2843	明治32年	春の部	菜の花に鍛冶が家見る眞昼哉	菜の花	植物
2845	明治32年	春の部	鶏の子やぬるむ水のむ器	水温む	地理
2847	明治32年	春の部	陽炎の草を離れてもゆる哉	陽炎	天文
2849	明治32年	春の部	唐人の春の冠うるはしき	春	時候
2851	明治32年	春の部	江の島の神の細工や春の貝	春	時候
2852	明治32年	春の部	鍋小さく長閑に物の煮ゆる哉	長閑	時候
2853	明治32年	春の部	永き日の物の種まくひとり哉	日永	時候
2855	明治32年	春の部	函根の山煙揚るところ / \	雑	雑
2857	明治32年	春の部	砂利舟の砂利こぼれけり春の風	春風	天文
2859	明治32年	春の部	山中は椿に物の静かなり	椿	植物
2861	明治32年	春の部	わざおぎや菜種の中の戻り路	菜の花	植物
2863	明治32年	春の部	菜の花や鐘もつかざる山の寺	菜の花	植物
2865	明治32年	春の部	雲ゆくや山冷かに蔭の薑	蔭の薑	植物
2867	明治32年	春の部	一村や晴れて富士見る柿若葉	柿若葉	植物
2869	明治32年	春の部	菜の花の美なる山河を夢むらん	菜の花	植物
2871	明治32年	春の部	春の夜の洗足ぬるき旅籠かな	春夜	時候
2873	明治32年	春の部	旭のさすや羽衣乾く草の蝶	蝶	動物
2875	明治32年	春の部	てふの眉誰が家の子の描きけん	蝶	動物
2877	明治32年	春の部	葉櫻にあしたの風や白き幣	葉櫻	植物
2879	明治32年	春の部	てふ / \ の麦の中から生れけり	蝶	動物
2881	明治32年	春の部	材木の菜種日和に乾くかな	菜の花	植物
2883	明治32年	春の部	搖曳の舟に見おろす海雲哉	雑	雑
2885	明治32年	春の部	思はずの小松が原や菜種さく	菜の花	植物
2887	明治32年	春の部	菜の花に染物干すや町はづれ	菜の花	植物
2889	明治32年	春の部	野社の菜の花くもり太鼓打つ	菜の花	植物
2890	明治32年	春の部	囚人の物もいはざる日永かな	日永	時候
2891	明治32年	春の部	絹張の蝙蝠今や菜種咲く	菜の花	植物
2892	明治32年	春の部	野火消えて伊吹おろしの淋しかり	野山焼	人事
2893	明治32年	春の部	菜種咲く近江の空の低き哉	菜の花	植物
2894	明治32年	春の部	近江路や菜の花車人みちて	菜の花	植物
2895	明治32年	春の部	菜の花に小さき佛の眠る哉	菜の花	植物
2896	明治32年	春の部	名物の餅に日永の埃り哉	日永	時候
2897	明治32年	春の部	花ちるや鱸にすべき籠の鮎	鮎膾	人事
2898	明治32年	春の部	降らざりし菜の花ぐもり京に入る	菜の花	植物
2899	明治32年	春の部	春の人に吾もまじりて京に入る	春	時候
2900	明治32年	春の部	雀子の一ト日は水に遊びけり	雀の子	動物
2902	明治32年	春の部	佛具屋に日當る春や奈良の町	春	時候
2903	明治32年	春の部	永き日の珠数賣る店や人もなし	日永	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2904	明治32年	春の部	袈裟衣緋や紫や京の春	春	時候
2905	明治32年	春の部	木魚さらす古道具の店長閑なる	長閑	時候
2906	明治32年	春の部	連翹や古き経賣る店の先	連翹	植物
2907	明治32年	春の部	幢幔や寺寂として春の雨	春雨	天文
2908	明治32年	春の部	金色の佛黒みし櫻か那	櫻	植物
2909	明治32年	春の部	行春の小坊主鐘を撞いて出る	行春	時候
2910	明治32年	春の部	春雨や寺かりてゐる夫婦もの	春雨	天文
2911	明治32年	春の部	禅を問へば桃花に牛の乳白し	桃	植物
2913	明治32年	春の部	剛の坐の黒皮緘し梅の花	梅	植物
2914	明治32年	春の部	漂着の黒奴に春の人ばかり	春	時候
2915	明治32年	春の部	黒奴の罵合ふや花の茶屋	花	植物
2916	明治32年	春の部	路傍や花菜に人の飯黒き	菜の花	植物
2917	明治32年	春の部	注連張りし黒き巖や海朧	朧	天文
2918	明治32年	春の部	山吹や鉄漿黒々の茶屋女	山吹	植物
2919	明治32年	春の部	引越しのかまどは黒し桃の花	桃	植物
2920	明治32年	春の部	黒々と木佛並び春の月	春の月	天文
2921	明治32年	春の部	花かざし顔の黒子やよき女	花	植物
2922	明治32年	春の部	酒苦がく櫻は黒き男かな	櫻	植物
2924	明治32年	春の部	てふ／＼の止まらんとする微風かな	蝶	動物
2925	明治32年	春の部	てふ／＼の物も思はず飛んでゐる	蝶	動物
2926	明治32年	春の部	てふ／＼や舟から上り岐れ道	蝶	動物
2927	明治32年	春の部	てふ／＼や何に集る庭の昼	蝶	動物
2928	明治32年	春の部	てふ／＼の吹かれては又逢はまくす	蝶	動物
2929	明治32年	春の部	間庭や蝶も出でざる昼下り	蝶	動物
2930	明治32年	春の部	てふ／＼の顔よきが恋せられなん	蝶	動物
2932	明治32年	春の部	釣鐘や落花つめたき雨のもり	落花	植物
2933	明治32年	春の部	商人の釣鐘覗く日永哉	日永	時候
2934	明治32年	春の部	鐘つけば殷々となる朧かな	朧	天文
2935	明治32年	春の部	行春の鐘撞き出す下山かな	行春	時候
2936	明治32年	春の部	春の日の鐘釣り上ぐる群衆哉	春日	時候
2937	明治32年	春の部	鐘釣て山吹散りぬ地のゆるぎ	山吹	植物
2938	明治32年	春の部	菜の花や村に鐘鑄る人どほり	菜の花	植物
2939	明治32年	春の部	試みに鐘など撞くや春の寺	春	時候
2940	明治32年	春の部	洪鐘や寂莫として落椿	椿	植物
2941	明治32年	春の部	陽炎の大地に据ゑし鐘黒き	陽炎	天文
2942	明治32年	春の部	島原や菜種の花に振返り	菜の花	植物
2943	明治32年	春の部	菜の花に揚屋の窓や小さかり	菜の花	植物
2944	明治32年	春の部	菜の花や人を手招ぐ小傾城	菜の花	植物
2945	明治32年	春の部	島原に異人も見えて柳かな	柳	植物
2946	明治32年	春の部	傾城の八文字ふむ柳かな	柳	植物
2947	明治32年	春の部	傾城の日今は赤き柳かな	柳	植物
2948	明治32年	春の部	洋人や菜種の花に廓出る	菜の花	植物
2949	明治32年	春の部	日は遅き壬生狂言の舞台かな	遅日	時候
2950	明治32年	春の部	菜の花に物賣る店や壬生念佛	菜の花	植物
2951	明治32年	春の部	島原は菜の花ぐもり壬生念佛	菜の花	植物
2952	明治32年	春の部	壬生寺に狂言はてし雲雀かな	雲雀	動物
2953	明治32年	春の部	飴賣も見てゐる壬生の踊かな	壬生念佛	人事
2955	明治32年	春の部	鶯や松の梢を雲帰る	鶯	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2957	明治32年	春の部	飛込んで浮きし蛙の頓悟哉	蛙	動物
2959	明治32年	春の部	遥拝の大極殿や雲雀鳴く	雲雀	動物
3793	明治33年	春の部	清泉に梅花を点ず梅の花	梅	植物
3794	明治33年	春の部	水に落つ鶴の涙や梅の花	梅	植物
3795	明治33年	春の部	徒らに焼かれし猫の戀衣	猫の戀	動物
3796	明治33年	春の部	春の夜や廊の裏の小提灯	春夜	時候
3797	明治33年	春の部	潔き白魚の目や水の中	白魚	動物
3798	明治33年	春の部	白魚をえりわけにけり海の草	白魚	動物
3799	明治33年	春の部	老猫の寝顔に戀もなかりけり	猫の戀	動物
3800	明治33年	春の部	東風吹くや松原出でし蜚少女	東風	天文
3801	明治33年	春の部	羽衣の東風に吹かれて松朝日	東風	天文
3802	明治33年	春の部	雪に落つ花釵や雪すべり	花簪	植物
3803	明治33年	春の部	人形や錦屑散る春の風	春風	天文
3804	明治33年	春の部	藻の花に手の届かざる沔哉	藻の花	植物
3805	明治33年	春の部	這ふちごのくうすべ知らで苺哉	苺	植物
3806	明治33年	春の部	諸共に泣き出す子供角力哉	角力	人事
3807	明治33年	春の部	雛抱いて唄ひ戻りぬ隣の子	雛	人事
3808	明治33年	春の部	ふらこゝの影の長さよ水の上	鞦韆	人事
3809	明治33年	春の部	提灯や路にかぶさる夜の花	花	植物
3811	明治33年	春の部	鎮守府の將軍星や王二月	二月	時候
3812	明治33年	春の部	藤茶屋の軒も柱も藤の花	藤の花	植物
3813	明治33年	春の部	出代の小錢ためたる財布かな	出代	人事
3814	明治33年	春の部	出代の人となりたる男ぶり	出代	人事
3815	明治33年	春の部	出代の主の妾を憎む哉	出代	人事
3816	明治33年	春の部	藪入の流行目にさす薬かな	藪入	人事
3817	明治33年	春の部	宮城野は畑となりし花菜哉	菜の花	植物
3818	明治33年	春の部	傾城の白石嘶春の雨	春雨	天文
3819	明治33年	春の部	遠雷に耳驚かす汐干かな	潮干	地理
3820	明治33年	春の部	よき人の足をかゆがる汐干かな	潮干	地理
3821	明治33年	春の部	踏青の終に汐干に遊びけり	潮干	地理
3822	明治33年	春の部	灯火に汐干のつとをひらきけり	潮干	地理
3823	明治33年	春の部	遠く遊ぶ汐干の人や暮遅き	潮干	地理
3824	明治33年	春の部	海苔籠朶や雨ふりやまぬ汐干潟	潮干	地理
3825	明治33年	春の部	東の海のしほひや春の雲	潮干	地理
3826	明治33年	春の部	門前の汐干に遊ぶ日もすがら	潮干	地理
3827	明治33年	春の部	男達船に物煮る汐干かな	潮干	地理
3946	明治34年	春の部	谷底の残の雪や山おろし	残雪	地理
3947	明治34年	春の部	小額による年波や猫の妻	猫の戀	動物
3948	明治34年	春の部	春の雪朧の月を見る兒に	春雪	天文
3949	明治34年	春の部	雪解の日毎 / \ や山の色	雪解	地理
3950	明治34年	春の部	初雷やさる上臈の宮ごもり	初雷	天文
3951	明治34年	春の部	囀って / \ いつこ飛去りぬ	囀	動物
3952	明治34年	春の部	語らひや身こもる田螺物うげに	田螺	動物
3953	明治34年	春の部	いもとねて神鳴をきく春の宵	春宵	時候
3954	明治34年	春の部	花にぬる鎧や春の宵しめり	春宵	時候
3955	明治34年	春の部	いつはりの皮衣やく春の宵	春宵	時候
3956	明治34年	春の部	名玉を砕いて春の夜の愁	春夜	時候
3957	明治34年	春の部	住吉の松めでたしや春の宵	春宵	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3958	明治34年	春の部	山吹の庄や山吹姫を見る	山吹	植物
3959	明治34年	春の部	角落ちし氣の衰や鹿の兒	鹿の角落つ	動物
3960	明治34年	春の部	飯蛸のうかれ心や月の汐	飯だこ	動物
3961	明治34年	春の部	よき衣のけはひも春の夢心	春の夢	人事
3962	明治34年	春の部	呼びかはす雀の親子悲くも	雀の子	動物
3963	明治34年	春の部	夕かすみ絹を曳いたる如き哉	霞	天文
3964	明治34年	春の部	初午の市に上りし鯿かな	鯿	動物
3965	明治34年	春の部	春の水風にふかるゝ水の皺	春の水	地理
3966	明治34年	春の部	あらがねに陽炎もゆる車上かな	陽炎	天文
3967	明治34年	春の部	紅の帳も見えず夕吹雪	吹雪	天文
3968	明治34年	春の部	塞上の胡笳塞下の吹雪哉	吹雪	天文
3969	明治34年	春の部	むせぶらん千鳥悲しや小夜吹雪	吹雪	天文
3970	明治34年	春の部	送出て吹雪の人を望みけり	吹雪	天文
3971	明治34年	春の部	日當や背戸の種井の水浅み	種井	人事
3972	明治34年	春の部	種物の器の水やくつがへり	種物	人事
3973	明治34年	春の部	紫に光りてあやし物の種	種物	人事
3974	明治34年	春の部	水につく藁の青みや種俵	種俵	人事
3975	明治34年	春の部	春寒したねをつくべき水溜	春寒	時候
3976	明治34年	春の部	星おちて紫烟騰りぬ胡射の春	春	時候
3977	明治34年	春の部	暁の星の柳に消えて昆明池	柳	植物
3978	明治34年	春の部	門に見る柳に絶えぬ愁かな	柳	植物
3979	明治34年	春の部	糞し去る玳瑁の梁や燕	燕	動物
3980	明治34年	春の部	芽を吹いて諸木の競心かな	芽吹く	植物
3981	明治34年	春の部	瓔珞の光や春の殿づくり	春	時候
3982	明治34年	春の部	買得たる桃の安さよ乱咲き	桃	植物
3983	明治34年	春の部	鶯のころも輕げに見ゆるかな	鶯	動物
3984	明治34年	春の部	鳥の巢や既に故郷の路にあり	鳥の巢	動物
3985	明治34年	春の部	干鱈さいて冷たく覚ゆ宵の春	春宵	時候
3986	明治34年	春の部	裏山の雑木の春や禽の声	春	時候
3987	明治34年	春の部	如月の節物遅し廿日過	如月	時候
3988	明治34年	春の部	暖や日向に据ゑし薬風呂	暖	時候
3989	明治34年	春の部	永き日の寿型をこねる一人かな	日永	時候
3990	明治34年	春の部	吊したるきゞすに遅き日脚哉	遅日	時候
3991	明治34年	春の部	山吹を括りて石を露はしぬ	山吹	植物
3992	明治34年	春の部	雛の間は寂しく思ふ四日哉	雛	人事
3993	明治34年	春の部	何草の芽ともわかざる花壇哉	草の芽	植物
3994	明治34年	春の部	黄鳥のやゝ近づいて来鳴く哉	鶯	動物
3995	明治34年	春の部	一丈もしだれて柳水を拂ふ	柳	植物
3996	明治34年	春の部	春の日の木魚を市にさらしけり	春日	時候
3997	明治34年	春の部	魏か晋か枯木か梅か古法帖	雑	雑
3998	明治34年	春の部	花束を抛ち去りぬ蜂の穴	蜂	動物
3999	明治34年	春の部	耕の人の家路や夕ぬくき	耕	人事
4000	明治34年	春の部	満面の酔や櫻に酒を吹く	櫻	植物
4001	明治34年	春の部	散りかゝる彼岸櫻や西行忌	西行忌	人事
4002	明治34年	春の部	釈典の人少ナなる香火かな	釋奠	人事
4003	明治34年	春の部	初花に心も留めず柚が妻	花	植物
4004	明治34年	春の部	種芋を盗まれにけり宵の中	種芋	植物
4005	明治34年	春の部	鳥雲に入て佛に見ゆらむ	鳥入雲	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4006	明治34年	春の部	偶々に麦ふむ足やこそかゆき	麥踏	人事
4007	明治34年	春の部	草餅を三ツ重ねたり小さき盆	草餅	人事
4008	明治34年	春の部	峯入の咒を讀上ぐる風雨かな	峰入	人事
4009	明治34年	春の部	只一ツ芽吹く接穂や忘霜	別れ霜	天文
4010	明治34年	春の部	花まさに開かん象行く吉なり	花	植物
4011	明治34年	春の部	野遊の女に歌をおくりけり	野遊	人事
4012	明治34年	春の部	花の露に濕ふ如し御身拭	御身拭	人事
4013	明治34年	春の部	耳をぬく雉子の悲鳴や泊狩	雉子	動物
4014	明治34年	春の部	ひたのぼる魚のきほひや上りやな	上り築	人事
4015	明治34年	春の部	物は夕鳥の別も憂かりけり	鳥帰る	動物
4016	明治34年	春の部	寒食や廂の前の白き花	寒食	人事
4017	明治34年	春の部	三里来て大津の鐘や鮎脛	鮎脛	人事
4018	明治34年	春の部	薪能奈良は静かに明けにけり	薪能	人事
4019	明治34年	春の部	豆の花摘まんと蜂にさゝれけり	雑	雑
4250	明治35年	春の部	鶯や人熱鉄を湯に投ず	鶯	動物
4251	明治35年	春の部	朧夜のたま / \ 鶴の鳴き去りぬ	朧	天文
4252	明治35年	春の部	雪洞の絹の光りや冴返り	冴返	時候
4253	明治35年	春の部	世の中の柳を見ても涙かな	柳	植物
4254	明治35年	春の部	鐘撞て京の日永し智恩院	日永	時候
4255	明治35年	春の部	佛閣の彼方にさびし薪能	薪能	人事
4256	明治35年	春の部	下菴の草に愁もなかりけり	草菴	植物
4257	明治35年	春の部	春の水柳洗はんばかりかな	春の水	地理
4258	明治35年	春の部	白魚の子をや生むらん宵の月	白魚	動物
4259	明治35年	春の部	炉塞や佛の飯のさびしくも	爐塞	人事
4260	明治35年	春の部	炉塞ば炉なし柳は緑にて	爐塞	人事
4261	明治35年	春の部	煩惱の炉は塞がてと悲めり	爐塞	人事
4262	明治35年	春の部	乾海苔の小家や春の雲の影	春の雲	天文
4264	明治35年	春の部	かゝる世に賢を招かば梅の花	梅	植物
4266	明治35年	春の部	桃散て神のお水もぬるみけり	桃	植物
4268	明治35年	春の部	初雷や人を惑はす張天師	初雷	天文
4269	明治35年	春の部	陽炎や大津の路の絵紙賣	陽炎	天文
4270	明治35年	春の部	温む川脛赤き鳥都鳥	水温む	地理
4272	明治35年	春の部	古の櫻もさかで哀なり	櫻	植物
4274	明治35年	春の部	畑打に鳥なく頃や歌枕	畑打ち	人事
4275	明治35年	春の部	初雷や屏風の鴛鴦の驚かず	初雷	天文
4276	明治35年	春の部	日當や競ひ出でたる蔭の臺	蔭の臺	植物
4278	明治35年	春の部	だまっては居れぬしびれもねはん像	涅槃會	人事
4280	明治35年	春の部	糊臭き雀の嘴やねはん像	涅槃會	人事
4282	明治35年	春の部	ねはん會や各が腹のへり加減	涅槃會	人事
4284	明治35年	春の部	一時佛右に寐返る別れかな	涅槃會	人事
4285	明治35年	春の部	引鶴の黄金の札も霞かな	引鶴	動物
4286	明治35年	春の部	耕して居れば咎もなかりけり	耕	人事
4287	明治35年	春の部	花くもり花なき里もなかりけり	花	植物
4288	明治35年	春の部	海棠に珊瑚の鞭をふるひけり	海棠	植物
4289	明治35年	春の部	大名の驕の沙汰や汐干狩	潮干狩	人事
4291	明治35年	春の部	綿つみの玉の臺や春寒し	春寒	時候
4292	明治35年	春の部	龍天に黄帝の御衣ひるかへる	龍登天	動物
4293	明治35年	春の部	踏青の皆珠をふむ美少年	踏青	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4294	明治35年	春の部	猫の子の父も知らざる哀かな	猫の子	動物
4295	明治35年	春の部	釈奠や上にまれます聖天子	釋奠	人事
4296	明治35年	春の部	凍とけてその若緑常盤なり	凍解	地理
4297	明治35年	春の部	淡雪の淡き契りや夢ばかり	淡雪	天文
4298	明治35年	春の部	つばくらに昼鳴る鐘や知恩院	燕	動物
4299	明治35年	春の部	面を吹く風軟かや小弓引	春風	天文
4300	明治35年	春の部	冷めしの宿はものうし朧月	朧月	天文
4301	明治35年	春の部	天さかる鄙路の春や歌枕	春	時候
4302	明治35年	春の部	趣や芥もくたに温む水	水温む	地理
4303	明治35年	春の部	悉く揚がる大凧小凧かな	凧	人事
4304	明治35年	春の部	梅咲いて賢を招かん國の守	梅	植物
4305	明治35年	春の部	獺の妻病で祭か延びにけり	獺の祭	時候
4306	明治35年	春の部	獺魚をまつるも宵の春なれや	獺の祭	時候
4307	明治35年	春の部	寒食の小皿に紅き芽うど哉	寒食	人事
4308	明治35年	春の部	うどの芽の潔うして春寒し	春寒	時候
4309	明治35年	春の部	涅槃会や鳥啼いてゐる沙羅双樹	涅槃會	人事
4310	明治35年	春の部	ねはん會の済んで鳴出す猫の妻	涅槃會	人事
4311	明治35年	春の部	二日灸麦の畑を眺めやり	二日灸	人事
4312	明治35年	春の部	二日灸肌ぬく事を羞らへり	二日灸	人事
4313	明治35年	春の部	初雷やよき人の夢を驚かす	初雷	天文
4314	明治35年	春の部	畑打や知事が来たとも知らぬげな	畑打ち	人事
4315	明治35年	春の部	水ぬるみ流るゝさまや椿落つ	水温む	地理
4316	明治35年	春の部	陽炎や庭に干したる鬼の面	陽炎	天文
4317	明治35年	春の部	雛の間の桃の屑はく四日哉	雛祭	人事
4318	明治35年	春の部	雛棚の飾も終へてうれしけれ	雛祭	人事
4319	明治35年	春の部	別荘の春まだ浅き便り哉	春淺し	時候
4320	明治35年	春の部	田螺臭き料理なりけり草の宿	田螺	動物
4321	明治35年	春の部	初午や狐のぬすむ小豆めし	初午	人事
4322	明治35年	春の部	手のひらの子雀飛ばす春の風	春風	天文
4323	明治35年	春の部	高砂や此浦舟も春けしき	春	時候
4324	明治35年	春の部	庭前の雪も残らずなりにけり	残雪	地理
4325	明治35年	春の部	子がやせた母もやせたと鳴蛙	蛙	動物
4326	明治35年	春の部	山吹や白木作りの行在所	山吹	植物
4327	明治35年	春の部	出代や叶はぬ戀の三年越	出代	人事
4328	明治35年	春の部	つみ草や羽衣見ゆるあたりまで	摘草	人事
4329	明治35年	春の部	出代の騮られ兒や桃の花	雑	雑
4330	明治35年	春の部	雁風呂のぬるきもうたゝ哀也	雁風呂	人事
4331	明治35年	春の部	白魚の身は潔し葦なます	雑	雑
4332	明治35年	春の部	小坊主の彼岸顔なり山嵐	彼岸	人事
4333	明治35年	春の部	悉く蛙となりぬ蛙の子	蛙	動物
4334	明治35年	春の部	古つかをさくり出して日は永し	日永	時候
4335	明治35年	春の部	昭君の馬や楊の花ふゝき	柳	植物
4336	明治35年	春の部	階前の花飛ぶ急に秦舞陽	花	植物
4337	明治35年	春の部	年々の桃の流や西施石	桃	植物
4338	明治35年	春の部	春風や徐福が舩の童男女	春風	天文
4339	明治35年	春の部	家に居る東方朔や田螺あへ	田螺和	人事
4340	明治35年	春の部	田螺賣る小鍋に春の日ざし哉	田螺	動物
4341	明治35年	春の部	陽炎や田螺の鍋の煮こぼるゝ	田螺	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4342	明治35年	春の部	田螺賣だまされてゐる都かな	田螺	動物
4343	明治35年	春の部	牡丹切て客驚かす春申君	牡丹	植物
4344	明治35年	春の部	燕青が雁を見上ぐる眼かな	雁	動物
4345	明治35年	春の部	古道を箕子泣き去りぬつくゞし	つくづく法師	動物
4346	明治35年	春の部	大將は霍嫖姚ぞ霜の声	霜	天文
4347	明治35年	春の部	草餅に張儀が舌の長い事	草餅	人事
4348	明治35年	春の部	春雨や縁に湯氣立つ薬鍋	春雨	天文
4349	明治35年	春の部	虎杖も蘇ものびて暮おそし	雑	雑
4350	明治35年	春の部	春の水あさみに及ぶ溢かな	春の水	地理
4351	明治35年	春の部	田兎鶉となりしや否吾不知焉	田兎化して鶉となる	時候
4352	明治35年	春の部	立札に人たかりけり花吹雪	花	植物
4353	明治35年	春の部	世の中の俳人どもやつくゞし	土筆	植物
4354	明治35年	春の部	猫の戀去年の恨もありぬべし	猫の戀	動物
4355	明治35年	春の部	遅き日や壬生の舞台の片明り	遅日	時候
4356	明治35年	春の部	踊見て壬生から戻る日永哉	日永	時候
4357	明治35年	春の部	先生がつくしの歌をよまれけり	土筆	植物
4358	明治35年	春の部	木蓮や庭にほしたる種俵	木蓮	植物
4359	明治35年	春の部	木蓮の画室に散りぬ二三片	木蓮	植物
4360	明治35年	春の部	春雨や狐落ちたる女泣く	春雨	天文
4361	明治35年	春の部	歌塚や柿の木の芽も春にして	春	時候
4362	明治35年	春の部	ほのゞとあけの蛙も鳴きにけり	蛙	動物
4363	明治35年	春の部	石楠花金剛山の知らぬ鳥	石楠花	植物
4364	明治35年	春の部	鳴神の石にひゞきや石楠花	石楠花	植物
4365	明治35年	春の部	麦鶉田兎の妻の知らず顔	麦鶉	動物
4366	明治35年	春の部	到る処菜種の中の麦青し	麦青む	植物
4367	明治35年	春の部	竹の秋嵯峨の名所は荒れにけり	竹の秋	植物
4368	明治35年	春の部	蛇も穴を出つる日和や老の杖	蛇穴を出る	動物
4369	明治35年	春の部	春もうし薬を煮る火消えがちに	春	時候
4370	明治35年	春の部	山霊の不可思議もあり泊狩	泊狩	人事
4371	明治35年	春の部	蜃氣楼いかなる神のこもるらん	蜃氣楼	天文
4372	明治35年	春の部	玉殿に春の御悩や反魂香	春	時候
4373	明治35年	春の部	桃の酒さめて桃ちる日暮哉	桃の酒	人事
4719	明治36年	春の部	鶴も帰り梅もちりけり丘夕	梅	植物
4720	明治36年	春の部	暗きより出でし貴人や薪能	薪能	人事
4721	明治36年	春の部	冴え返る神の井の水湧き足らず	冴返	時候
4722	明治36年	春の部	氷とけて鴛鴦の毛も流れけり	氷解	地理
4723	明治36年	春の部	木の芽苦き鶯の舌や別霜	別れ霜	天文
4724	明治36年	春の部	春淺し等閑に見る蛙の句	春淺し	時候
4725	明治36年	春の部	野を焼くや貴人たまゝ過ぎにけり	野山焼	人事
4726	明治36年	春の部	春風の吹静まりやうす曇	春風	天文
4727	明治36年	春の部	初午や一樹うれしき野路の梅	初午	人事
4728	明治36年	春の部	鳴くや田螺夜来八萬四千の偈	田螺	動物
4730	明治36年	春の部	初雷や命婦訪ふ草の宿	初雷	天文
4731	明治36年	春の部	初雷や高麗人光る君を相る	初雷	天文
4732	明治36年	春の部	折からの初雷や品さだめ	初雷	天文
4733	明治36年	春の部	初雷に尼君ひとり淋しけれ	初雷	天文
4734	明治36年	春の部	初雷を紫の上寐入りけり	初雷	天文
4735	明治36年	春の部	初雷に物のけ落す修法かな	初雷	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4736	明治36年	春の部	初雷や小君かしこきかへり言	初雷	天文
4737	明治36年	春の部	初雷や衣にかくるゝ人ぞうき	初雷	天文
4738	明治36年	春の部	初雷や末摘花もあはれなり	初雷	天文
4739	明治36年	春の部	初雷や松も淋しき須磨の宿	初雷	天文
4740	明治36年	春の部	陽炎の乱れて孔雀飛ばんとす	陽炎	天文
4741	明治36年	春の部	日蝕や水草の芽のうす緑	草の芽	植物
4742	明治36年	春の部	菊根分こゝにひとりの翁あり	菊根分	人事
4743	明治36年	春の部	門前に子等集ひけり西行忌	西行忌	人事
4744	明治36年	春の部	梅月夜水神を見るかしこさよ	梅	植物
4745	明治36年	春の部	童子二三人春服既に成る	春服	人事
4746	明治36年	春の部	日蝕や野に囀の声もなし	囀	動物
4747	明治36年	春の部	試に童子酔ひたり桃の酒	桃の酒	人事
4748	明治36年	春の部	酒壺や多少の桃花鮮かに	桃	植物
4749	明治36年	春の部	桃の酒顔色いよゝ美なる哉	桃の酒	人事
4750	明治36年	春の部	桃の酒小狙も酔ひて睡りけり	桃の酒	人事
4751	明治36年	春の部	桃の酒楊貴妃に戯れ給ふ	桃の酒	人事
4752	明治36年	春の部	春の月還御の頃を傾きぬ	春の月	天文
4753	明治36年	春の部	春の月花にそむける人や誰	春の月	天文
4754	明治36年	春の部	春の月加茂の社家人ほのめきて	春の月	天文
4755	明治36年	春の部	春の月枯れて久しき柳かな	春の月	天文
4756	明治36年	春の部	清水の舞臺や春の月に歩す	春の月	天文
4758	明治36年	春の部	ゆく春の雲見れば雲流れけり	行春	時候
4759	明治36年	春の部	春立や紫の衣市の人	立春	時候
4760	明治36年	春の部	若草の妻とこもりて雉子きく	雉子	動物
4761	明治36年	春の部	飯喰に戻るもうしや猫の恋	猫の戀	動物
4762	明治36年	春の部	春の雪つらなるともし春めきぬ	春雪	天文
4763	明治36年	春の部	折からの春の雷うれしけれ	春雷	天文
4764	明治36年	春の部	梅の花日の本國神の國	梅	植物
4765	明治36年	春の部	春さむし母の病に花もなし	春寒	時候
4766	明治36年	春の部	初雷やかるたの友と夜を語る	初雷	天文
4767	明治36年	春の部	白魚をめぐはし妹におくりけり	白魚	動物
4768	明治36年	春の部	鶯にのますべき水もぬるみけり	鶯	動物
4769	明治36年	春の部	牢を出れば木芽の春となりけり	木の芽	植物
4770	明治36年	春の部	雪なだれさくべきさくら折れにけり	雪崩	地理
4771	明治36年	春の部	清貧と称す厨や鮎膾	鮎膾	人事
4772	明治36年	春の部	よき海苔の十帖ばかり土産哉	海苔	植物
4773	明治36年	春の部	妻よびに猫出る頃や露のとう	露の臺	植物
4774	明治36年	春の部	まや參馬に驚く女づれ	摩耶詣	人事
4775	明治36年	春の部	日の春や刀をつゝむ古錦らん	春日	時候
4776	明治36年	春の部	翻々とうるはしき子やつくしつみ	土筆	植物
4777	明治36年	春の部	土筆つみ茨の下をかいくゞり	土筆	植物
4778	明治36年	春の部	しばらくは土筆もつまで遊びけり	土筆	植物
4779	明治36年	春の部	土筆つむ兼好法師も春の人	土筆	植物
4780	明治36年	春の部	つくしつみし今宵の夢や乳母が宿	土筆	植物
4781	明治36年	春の部	飯蛸の飯も料理やうど若し	飯だこ	動物
4782	明治36年	春の部	おもんみれば釈迦終焉記迦葉筆	涅槃會	人事
4783	明治36年	春の部	塗物を玉かと春の光かな	春の光	天文
4784	明治36年	春の部	雁風呂に胡女が唄を憐みぬ	雁風呂	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4785	明治36年	春の部	薬も乏しきばらの荅かな	薬	植物
4786	明治36年	春の部	二日灸三里は花の定坐かな	二日灸	人事
4787	明治36年	春の部	鳴神の氣もすが / \ と接木哉	接木	人事
4788	明治36年	春の部	歌書俳書その棚々や炉をふさぐ	爐塞	人事
4789	明治36年	春の部	熊野を謠ふ楼上の灯や帰雁	帰る雁	動物
4790	明治36年	春の部	釈典や彼の丘隅の黄なる鳥	釋奠	人事
4791	明治36年	春の部	たぬしきゝつかもとよみけり春の歌	春	時候
4792	明治36年	春の部	苗代の多少の水や春深淺	苗代	地理
4793	明治36年	春の部	竹の秋山荘に定家雨をさく	竹の秋	植物
4794	明治36年	春の部	草餅に脇句うれしく吟じけり	草餅	人事
4795	明治36年	春の部	春の海須磨は悲しき処かな	春の海	地理
4796	明治36年	春の部	負けるなど其角が声や鷄合	鷄合	人事
4797	明治36年	春の部	春眠不覚曉と答へけり	春眠	人事
4798	明治36年	春の部	其角忌や疊の上の松の影	其角忌	人事
4799	明治36年	春の部	苗代の畔や菜種のこぼれ咲	菜の花	植物
4800	明治36年	春の部	羽衣を望む蛙の目つき哉	蛙	動物
4801	明治36年	春の部	蜜蜂の蜜に酔ひたる宵寐哉	蜂	動物
4802	明治36年	春の部	去る蝶の女心や来る蜂	蜂	動物
4803	明治36年	春の部	扇軽く花に小蜂を拂ひけり	蜂	動物
4804	明治36年	春の部	蜂の子の薊の花に遊びけり	薊の花	植物
4805	明治36年	春の部	蜂一ツ侯伯を脅かし去る	蜂	動物
4806	明治36年	春の部	木の実うゑて寺に碁を見る樵者哉	木實植う	人事
4807	明治36年	春の部	園林の遅日木実もうゑにけり	木實植う	人事
4808	明治36年	春の部	木の実うゑる山の流もぬるみけり	木實植う	人事
4809	明治36年	春の部	木実うゑて猿を愛する閑もあり	木實植う	人事
4810	明治36年	春の部	木実うゑてしばらく松に雨やどり	木實植う	人事
4811	明治36年	春の部	薬にもすとて木実のうゑあまり	木實植う	人事
4812	明治36年	春の部	林間に遍き日向木実うゑ	木實植う	人事
4813	明治36年	春の部	木実うゑて家に居れば鳥雲に	木實植う	人事
4814	明治36年	春の部	木実うゑる頭の上や春の雲	木實植う	人事
4815	明治36年	春の部	去年買ひし裏の禿山木実うゑ	木實植う	人事
4816	明治36年	春の部	木実うゑて立去る丘や百千鳥	木實植う	人事
4817	明治36年	春の部	柳鮠釣る人もなし都鳥	柳鮠	動物
4818	明治36年	春の部	柳鮠網にかゞやく春日哉	柳鮠	動物
4819	明治36年	春の部	をし去るや波暖き柳鮠	柳鮠	動物
4820	明治36年	春の部	古芝にひた釣上げぬ柳はえ	柳鮠	動物
4821	明治36年	春の部	柳はえかくるゝ程に水草生ふ	柳鮠	動物
4822	明治36年	春の部	草の芽の赤きも見えて柳はえ	柳鮠	動物
4823	明治36年	春の部	柳はえ柳の絮の乱れかな	柳鮠	動物
4824	明治36年	春の部	柳はえ春水石をめぐる処	柳鮠	動物
4825	明治36年	春の部	柳はえ石垣存す膳所の城	柳鮠	動物
4826	明治36年	春の部	絲遊に驚きもするか柳はえ	柳鮠	動物
4827	明治36年	春の部	崖畑の花菜はすきて柳はえ	柳鮠	動物
4828	明治36年	春の部	春の夜毎薬湯に来る姉妹	春夜	時候
4829	明治36年	春の部	春の夜を皆酔臥しぬ天狗ども	春夜	時候
4830	明治36年	春の部	春の夜の厨は鱒に灯あきらか	春夜	時候
4831	明治36年	春の部	名香に酔ひて春の夜睡られず	春夜	時候
4832	明治36年	春の部	手枕に五衰の夢や夜半の春	春夜	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4833	明治36年	春の部	春の夜の物妬ましく明けにけり	春夜	時候
4834	明治36年	春の部	春の夜の情に堪へたり沈丁花	春夜	時候
4835	明治36年	春の部	羽衣をかへして宵の春さびし	春宵	時候
4836	明治36年	春の部	歌の主を春夜もすがら戀ひにけり	春夜	時候
4837	明治36年	春の部	舞衣に春の夜露を厭ひけり	春夜	時候
4838	明治36年	春の部	陽炎に臥猪の床を見たりけり	陽炎	天文
4839	明治36年	春の部	陽炎や其せんだんの二夕葉より	陽炎	天文
4840	明治36年	春の部	陽炎や山路ゆきゆく踏迷ひ	陽炎	天文
4841	明治36年	春の部	陽炎をかきみたしたる落花哉	陽炎	天文
4842	明治36年	春の部	陽炎や花流れ去り流れ来る	陽炎	天文
4843	明治36年	春の部	陽炎を拂って柳しだれけり	陽炎	天文
4844	明治36年	春の部	陽炎や茨の芽赤き藪の中	陽炎	天文
4845	明治36年	春の部	陽炎に五々のたんぽゝ黄なる哉	陽炎	天文
4846	明治36年	春の部	陽炎や断橋の影水にあり	陽炎	天文
4847	明治36年	春の部	芹の香に鶴の別を惜みけり	芹	植物
4848	明治36年	春の部	芹取て小松にはぢく雫かな	芹	植物
4849	明治36年	春の部	下立ちて雪間の芹に小手寒し	芹	植物
4850	明治36年	春の部	初東風や朝戸にすつる芹の屑	芹	植物
4851	明治36年	春の部	芹取やえりに柳のまだ寒し	芹	植物
4852	明治36年	春の部	芹取るや短き芹は流れけり	芹	植物
4853	明治36年	春の部	芹つむで旦の丘に上りけり	芹	植物
4854	明治36年	春の部	芹採る子或は薄氷を涉りけり	芹	植物
4855	明治36年	春の部	根芹洗ふ更によき水湧くところ	芹	植物
4856	明治36年	春の部	春の雪きのふや採りし芹田哉	芹	植物
4857	明治36年	春の部	はづらひや芹田にぬれし帯の端	芹	植物
10593	明治36年	春の部	交る鳥いづれか歌をよまざりれり	交る鳥	動物
5230	明治37年	春の部	棧に陽炎もゆる雪消かな	陽炎	天文
5231	明治37年	春の部	ぬるむ水芹徒らに伸びまさり	水温む	地理
5232	明治37年	春の部	初雷に雁鳴き立つる水田哉	初雷	天文
5233	明治37年	春の部	錦織る女はらから寒食す	寒食	人事
5234	明治37年	春の部	笑ふ山麓の村の日の御旗	山笑う	地理
5235	明治37年	春の部	還暦の祝もすめり二ノ替	二の替	人事
5236	明治37年	春の部	山遊びわれに随ふ春の雲	春の雲	天文
5237	明治37年	春の部	其角忌を火燧の名残老破笠	其角忌	人事
5238	明治37年	春の部	其角忌の白髪かこちぬ秋色女	其角忌	人事
5239	明治37年	春の部	其角忌や美女花の如く半時庵	其角忌	人事
5240	明治37年	春の部	古酒ねだる佛しのべ梅の花	梅	植物
5241	明治37年	春の部	其角忌や柳をつかむ女の子	其角忌	人事
5243	明治37年	春の部	臃なり昔馬上の琵琶の主	臃	天文
5244	明治37年	春の部	詩に狂ふ僧や漫りに春を怨む	春	時候
5245	明治37年	春の部	彼岸すぎて本堂さむし造花	彼岸	人事
5246	明治37年	春の部	若芝や水に掃き出す芝の屑	若芝	植物
5247	明治37年	春の部	女若く芍薬の芽の如くなり	芍薬の芽	植物
5248	明治37年	春の部	日の光さし木の蔽もれにけり	挿木	人事
5249	明治37年	春の部	武夫の見るものにして鶏合	鶏合	人事
5250	明治37年	春の部	裏の田に田螺を見得て遊びけり	田螺	動物
5251	明治37年	春の部	國の乱れ山徒らに焼けにけり	野山焼	人事
5252	明治37年	春の部	山焼いて怪まれけり旅の僧	野山焼	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5253	明治37年	春の部	林間に山やきし子等遊びけり	野山焼	人事
5254	明治37年	春の部	片栗の花盛りなり焼かぬ山	片栗の花	植物
5255	明治37年	春の部	宵に見る山火や旅の語草	野山焼	人事
5256	明治37年	春の部	囀や藪をめぐらす水たまり	囀	動物
5257	明治37年	春の部	炉塞きて夕飯心細かりし	爐塞	人事
5258	明治37年	春の部	鮒鱈少年行を歌ひけり	鮒鱈	人事
5260	明治37年	春の部	梨の花ハ手車空しく過きにけり	梨の花	植物
5262	明治37年	春の部	幼稚園風の日の柳桜かな	雑	雑
5263	明治37年	春の部	春の日の玉を溶かして温泉哉	春日	時候
5264	明治37年	春の部	春の村温泉の湧く所見てあるく	春	時候
5265	明治37年	春の部	春の雲湯の湧く山を流れけり	春の雲	天文
5266	明治37年	春の部	湯治人河原をあるく柳かな	柳	植物
5267	明治37年	春の部	鳥雲に入て靈泉湧き止まず	鳥入雲	動物
5269	明治37年	春の部	竹落葉落柿舎の狸追はれけり	竹落葉	植物
5270	明治37年	春の部	古塚のほとり水澄む竹落葉	竹落葉	植物
5271	明治37年	春の部	花を見て夕に帰る竹落葉	竹落葉	植物
5272	明治37年	春の部	竹落葉把栗帰らぬ寺淋し	竹落葉	植物
5273	明治37年	春の部	若鮎の値を問ふや竹落葉	竹落葉	植物
5274	明治37年	春の部	針供養浪々の夫を恨みけり	針供養	人事
5275	明治37年	春の部	御忌の雨寺の白梅乱れ落つ	御忌	人事
5276	明治37年	春の部	冴返る夜店萬年青に人少な	冴返	時候
5277	明治37年	春の部	入來の敵に警む冴返り	冴返	時候
5278	明治37年	春の部	踏青の人驚ける狼煙哉	踏青	人事
5279	明治37年	春の部	人山に入りて帰らぬ日永哉	日永	時候
5280	明治37年	春の部	千羊皮客に頒てり桃の花	桃	植物
5281	明治37年	春の部	二ノ替鄙の知人連立ちぬ	二の替	人事
5282	明治37年	春の部	貧にして人に疎きころ梅の花	梅	植物
5283	明治37年	春の部	陋巷の梅顔セを照しけり	梅	植物
5284	明治37年	春の部	鴨の背に雪消の水の光哉	雪解	地理
5285	明治37年	春の部	白梅ややれつくしたる一狐裘	梅	植物
5286	明治37年	春の部	古文辞に人を老いしむ梅の花	梅	植物
5287	明治37年	春の部	二ノ替麦ふむ人をさそひけり	二の替	人事
5288	明治37年	春の部	二ノ替なほ輝の浪花人	二の替	人事
5289	明治37年	春の部	二ノ替藪入もせで日立ちけり	二の替	人事
5290	明治37年	春の部	雪なだれ崖の小家に人住めり	雪崩	地理
5291	明治37年	春の部	雪に積む材木崩る雪消哉	雪解	地理
5292	明治37年	春の部	風引いて粥のあはしや梅の花	梅	植物
5293	明治37年	春の部	人毎に梅さげ返る熟舎哉	梅	植物
5294	明治37年	春の部	野路の梅耕すは我が徒よ	梅	植物
5295	明治37年	春の部	白梅や住みもすてざる草の宿	梅	植物
5296	明治37年	春の部	折枝ふむ松の山路の雪消哉	雪解	地理
5297	明治37年	春の部	下蒨の皆庭鳥にはまれけり	草蒨	植物
5298	明治37年	春の部	陽炎の湯の村行けば湯の香哉	陽炎	天文
5299	明治37年	春の部	湯の里に通ふ小橋や春の人	春	時候
5300	明治37年	春の部	徒らに湯のわく処つばめ哉	燕	動物
5301	明治37年	春の部	陽炎や何萬人が呼ばふ声	陽炎	天文
5302	明治37年	春の部	湯にこもる女さそひつ春の山	春の山	地理
5303	明治37年	春の部	湯の村の見る物柳緑也	柳	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5304	明治37年	春の部	かしこみて見上ぐれば鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5305	明治37年	春の部	花に酔ふてかゞやく顔や水鏡	花	植物
5306	明治37年	春の部	若芝を歩み去りたる女かな	若芝	植物
5307	明治37年	春の部	花ふゞき音楽近く起りけり	花	植物
5308	明治37年	春の部	ふらこゝや祭にゆかぬ兒一人	鞦韆	人事
5309	明治37年	春の部	目さしやく隣ありけり宵の春	目刺	人事
5310	明治37年	春の部	目刺干す日頃桜蚊生れけり	目刺	人事
5311	明治37年	春の部	目刺干す磯村花もなかりけり	目刺	人事
5312	明治37年	春の部	目刺焼く宿の畑や春の雨	目刺	人事
5313	明治37年	春の部	家に居て目さし作りぬ濱日和	目刺	人事
5314	明治37年	春の部	のり干してめざしもつくる女多く	目刺	人事
5315	明治37年	春の部	花に来る蜂しば / \ や目さしほす	目刺	人事
5316	明治37年	春の部	炭焼の眺め桜の古木哉	櫻	植物
5317	明治37年	春の部	帰省して産土神詣で遅桜	櫻	植物
5318	明治37年	春の部	夜桜や木蔭より出る兒一人	櫻	植物
5319	明治37年	春の部	桜狩法主は若くおはしけり	花見	人事
5320	明治37年	春の部	小高みに花を隔つや吉水院	花	植物
5321	明治37年	春の部	住みすてず籬落浅きに桜哉	櫻	植物
5322	明治37年	春の部	満開の桜にあけし朝戸哉	櫻	植物
5323	明治37年	春の部	暖き日中野埃立つ見えて	暖	時候
5324	明治37年	春の部	雨の音暖き宵の雨の中	暖	時候
5325	明治37年	春の部	野遊の赤毛布敷く暖き	野遊	人事
5326	明治37年	春の部	背にぬくき日ざし蕙帆つゞりけり	暖	時候
5327	明治37年	春の部	潤や社日の雨のあたゝかな	社日	時候
5328	明治37年	春の部	みづ / \ し玉籬に添ふ花の色	花	植物
5605	明治38年	春の部	きさらぎの花に逢ひたる命かな	如月	時候
5606	明治38年	春の部	春浅き宿や紀ノ女の歌反古	春浅し	時候
5607	明治38年	春の部	涅槃會に活潑々の羅漢かな	涅槃會	人事
5608	明治38年	春の部	雉子打って立つや海山夕ぐもり	雉子	動物
5609	明治38年	春の部	雪國の雪に壓されて木の芽哉	木の芽	植物
5610	明治38年	春の部	野火燃えて金澤の柵はなかりけり	野山焼	人事
5611	明治38年	春の部	偷見る妹が草紙や宵の春	春宵	時候
5612	明治38年	春の部	花に雨家々の秋千ぬれにけり	鞦韆	人事
5613	明治38年	春の部	春古き嵯峨の野川や水ぬるむ	水温む	地理
5614	明治38年	春の部	氷融けて柳の渡し猶寒し	氷解	地理
5615	明治38年	春の部	此頃の夜は臙なり歌かるた	臙	天文
5616	明治38年	春の部	楢古し雪解の頃の山の宿	雪解	地理
5617	明治38年	春の部	澤畔や雪解の頃の春を佗ぶ	雪解	地理
5618	明治38年	春の部	片栗の花日に匂ふ雪解かな	雪解	地理
5619	明治38年	春の部	乱山の先を争ふ雪解かな	雪解	地理
5620	明治38年	春の部	鵠の昨日や去りし雪解かな	雪解	地理
5621	明治38年	春の部	鱒に網川波ゆらぐ春日かな	鱒	動物
5622	明治38年	春の部	猫の子ら愁人の裳をかゝまくす	猫の子	動物
5623	明治38年	春の部	摘みこぼす草や種井に満つる水	種井	人事
5624	明治38年	春の部	鶯を深く蔵しぬ竹の秋	竹の秋	植物
5625	明治38年	春の部	春惜む文細々と書かれけり	春惜む	時候
5626	明治38年	春の部	曲水に妹のからうた妬しき	曲水	人事
5627	明治38年	春の部	耕して落花の水を澆きけり	耕	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5628	明治38年	春の部	樂や老いて耕す帝の田	耕	人事
5629	明治38年	春の部	耕すや鄙人は知らず箕子の國	耕	人事
5630	明治38年	春の部	花に簞耕すわざをまねびけり	耕	人事
5631	明治38年	春の部	梅の花よき墨つくる家なりけり	梅	植物
5632	明治38年	春の部	水上は五十鈴の春や苗代田	苗代	地理
5633	明治38年	春の部	苗代の春にほとりす小百姓	苗代	地理
5634	明治38年	春の部	苗代や鄙人昇きゆく古神輿	苗代	地理
5635	明治38年	春の部	苗代の参差と山べ春めきぬ	苗代	地理
5636	明治38年	春の部	苗代に徑よりすや宵あるき	苗代	地理
5637	明治38年	春の部	初雷に天津祝詞のかしこさよ	初雷	天文
5638	明治38年	春の部	残雪や古松が根の日の光	残雪	地理
5639	明治38年	春の部	残雪や斧も入れざる松林	残雪	地理
5640	明治38年	春の部	残雪や小松がうれの日の光	残雪	地理
5641	明治38年	春の部	炉塞や草の芽くるゝ隣の子	爐塞	人事
5642	明治38年	春の部	山笑ふ旅路の果となりけり	山笑う	地理
5643	明治38年	春の部	釈奠の人遊ぶ松の緑かな	釋奠	人事
5644	明治38年	春の部	古道人行くこと少れに百千鳥	百千鳥	動物
5645	明治38年	春の部	小弓引艶なる人を妬みけり	小弓引	人事
5646	明治38年	春の部	梅の花白きにたへず鶴帰る	梅	植物
5647	明治38年	春の部	繪踏して去る結髪の壮士哉	繪踏	人事
5648	明治38年	春の部	一人子を掌裡の珠や雛まつり	雛祭	人事
5649	明治38年	春の部	耕や夜は遊ぶ古雛	雛祭	人事
5650	明治38年	春の部	ふらここの影に惑へる子猫哉	猫の子	動物
5651	明治38年	春の部	紫の朱のと鳥のつるみけり	鳥交る	動物
5652	明治38年	春の部	詩を焚くや春雁雲に入る夕	春雁	動物
5653	明治38年	春の部	虎杖や大澤の鳥雲に入る	鳥入雲	動物
5654	明治38年	春の部	鳥雲に入て枯木藁あり	鳥入雲	動物
5959	明治39年	春の部	こさ吹くや返照雲の山に満つ	霾	天文
5960	明治39年	春の部	黄梅の家を記得す故園哉	黄梅	植物
5961	明治39年	春の部	こさ鳴って東風ふきぬけり枯木立	霾	天文
5962	明治39年	春の部	こさふけば寒霞日暮を靡きけり	霾	天文
5964	明治39年	春の部	氷に上る魚に驚く聖かな	魚氷に上る	時候
5965	明治39年	春の部	氷に上る魚や瀬の神淵の神	魚氷に上る	時候
5966	明治39年	春の部	羞らくは氷に上る魚の糞を見る	魚氷に上る	時候
5967	明治39年	春の部	國風は氷に上る魚の樂か	魚氷に上る	時候
5968	明治39年	春の部	遊人や魚氷に上る金閣寺	魚氷に上る	時候
5969	明治39年	春の部	春寒の凝りてや露の臺青し	露の臺	植物
5970	明治39年	春の部	滝水に眉目痛しや冴返り	冴返	時候
5971	明治39年	春の部	夜奔る卓文君や猫の戀	猫の戀	動物
5972	明治39年	春の部	耳底にひゞく獅子吼や涅槃像	涅槃會	人事
5973	明治39年	春の部	玉くしけ開かんと欲す春の宵	春宵	時候
5974	明治39年	春の部	王城を南に去るや一ノ午	初午	人事
5975	明治39年	春の部	經卷と薬炉と彼岸七日哉	彼岸	人事
5976	明治39年	春の部	おぼろかに夜はなりゆくや春の雪	春雪	天文
5977	明治39年	春の部	荒牧や片へはつもる春の雪	春雪	天文
5978	明治39年	春の部	蟄虫は目さめてみるか春の雪	春雪	天文
5979	明治39年	春の部	若芝や撞鐘を距る十歩程	若芝	植物
5980	明治39年	春の部	若芝の侵さんとする接木かな	若芝	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
5981	明治39年	春の部	若芝にホテルを出る日今哉	若芝	植物
5982	明治39年	春の部	若芝に門開きけり植物園	若芝	植物
5983	明治39年	春の部	芝萌ゆるぢぢが魚釣処かな	若芝	植物
5984	明治39年	春の部	督郵のこの山越えし雪解かな	雪解	地理
5985	明治39年	春の部	草餅に妻が知らざる苦吟かな	草餅	人事
5986	明治39年	春の部	春の霜花屋が暁の灯かな	春霜	天文
5987	明治39年	春の部	雉子鳴くや草をなびかす李將軍	雉子	動物
5988	明治39年	春の部	柳伐て今年燕を淋しうす	燕	動物
5989	明治39年	春の部	長閑さの人に讀ましむ鐘の銘	長閑	時候
5990	明治39年	春の部	つくば過ぎて幾夜か寐つる啼雲雀	雲雀	動物
5992	明治39年	春の部	皆化して蜂と飛去る百千句	蜂	動物
5993	明治39年	春の部	水は温む野芝居ありし辺り哉	水温む	地理
5994	明治39年	春の部	水温む船路を人と別れけり	水温む	地理
5995	明治39年	春の部	鬼棲まずなりて山川ぬるみけり	水温む	地理
5996	明治39年	春の部	水温む庭の景色や閨の昼	水温む	地理
5997	明治39年	春の部	水温み菜の花咲かぬ畑もなし	水温む	地理
5998	明治39年	春の部	温む水春や昔の春ならぬ	水温む	地理
5999	明治39年	春の部	懐旧の水を探れば水温む	水温む	地理
6000	明治39年	春の部	山人は正に睡れり水温む	水温む	地理
6001	明治39年	春の部	帛を衣て春の寒さを怕れけり	春寒	時候
6002	明治39年	春の部	東より西に過ぎたる田螺かな	田螺	動物
6003	明治39年	春の部	學人が眼睛萌ゆる草に落つ	草萌	植物
6004	明治39年	春の部	梅咲いて鼻孔に春の寒哉	梅	植物
6005	明治39年	春の部	客曰く眉毛生ぜり猫が戀	猫の戀	動物
6006	明治39年	春の部	むつの牧東に開け春の海	春の海	地理
6007	明治39年	春の部	繪踏する九州一の美人かな	繪踏	人事
6008	明治39年	春の部	凍解くるほとり八ツ手の古葉哉	凍解	地理
6009	明治39年	春の部	連綿と柳の村や春の海	春の海	地理
6010	明治39年	春の部	恙なしと文す如月半ばかり	如月	時候
6011	明治39年	春の部	寒食や桃に小暗き民の家	寒食	人事
6012	明治39年	春の部	崢嶸と聳ゆる山や帰る雁	帰る雁	動物
6013	明治39年	春の部	春の雁瘦せて湖水に映りけり	春雁	動物
6014	明治39年	春の部	珊瑚の鞭雁の別を送りけり	帰る雁	動物
6016	明治39年	春の部	梅の花咳唾の珠を偲びけり	梅	植物
6018	明治39年	春の部	雛もなし汝を桃の花の顔	雛	人事
6019	明治39年	春の部	山買ふや山の境の春の水	春の水	地理
6020	明治39年	春の部	木実うゑんと思ふあたりをありきけり	木實植う	人事
6021	明治39年	春の部	田螺賣桃李のこみち戻りけり	田螺	動物
6022	明治39年	春の部	若もゆる長信宮の祠かな	草萌	植物
6023	明治39年	春の部	一ト列に挿しゝ塘の木芽かな	木の芽	植物
6024	明治39年	春の部	桜狩汐干狩より尚遠し	花見	人事
6025	明治39年	春の部	垣を結ふ大根の花の主かな	大根の花	植物
6026	明治39年	春の部	富めるもの嘲けられけり桜鯛	桜鯛	動物
6027	明治39年	春の部	物皆の処を得たり鳥交る	鳥交る	動物
6028	明治39年	春の部	耕して釣徒と暮を帰りけり	耕	人事
6029	明治39年	春の部	山をやく夕やうはゞみ慟哭す	野山焼	人事
6030	明治39年	春の部	花をまつ我に桜蚊飛来る	春の蚊	動物
6031	明治39年	春の部	鯉賣る軒端や春の虫がとぶ	鯉	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6032	明治39年	春の部	連翹や花に突入る牛の角	連翹	植物
6033	明治39年	春の部	海棠に狂杜が才を試みん	海棠	植物
6034	明治39年	春の部	嘲や我は飯喰ふ其角の日	其角忌	人事
6035	明治39年	春の部	夏近し賣残したる花の酒	夏近し	時候
6036	明治39年	春の部	むざ / \ と馬に喰はれぬ萩若葉	萩若葉	植物
6037	明治39年	春の部	晝を睡る書楼の人や松の花	松の花	植物
6038	明治39年	春の部	海苔の香に巖を思ふ雄鹿の宿	海苔	植物
6039	明治39年	春の部	菊根分桜頻りに散る日哉	菊根分	人事
6040	明治39年	春の部	雲雀揚がる武藏の國の眞中哉	雲雀	動物
6041	明治39年	春の部	尺八や宵をほのめく積塔會	積塔會	人事
6042	明治39年	春の部	頽れたるかまとや庵の三月尽	三月尽	時候
6043	明治39年	春の部	ゆく春の茶の木がくれや人遊ぶ	行春	時候
6420	明治40年	春の部	人とりしなだれの雪の残りけり	残雪	地理
6421	明治40年	春の部	東風吹いて山紫と成にけり	東風	天文
6422	明治40年	春の部	凧の尾の空にからまる物もなし	凧	人事
6423	明治40年	春の部	灯の花に尚疑ひや春の宵	春宵	時候
6424	明治40年	春の部	此心竟に動かず梅の花	梅	植物
6425	明治40年	春の部	梅白し弊履を棄てゝ人の去る	梅	植物
6426	明治40年	春の部	かれ / \ て一樹となりぬ梅の花	梅	植物
6427	明治40年	春の部	古梅に廬を結ぶ花を省みず	梅	植物
6428	明治40年	春の部	筆陣や梅に争ふ儒と釈と	梅	植物
6429	明治40年	春の部	家貧しければ梅いよ / \ 白し	梅	植物
6430	明治40年	春の部	雪の下の地を見る頃や冴返る	冴返	時候
6431	明治40年	春の部	鳥雲に入るや人待つこと久し	鳥入雲	動物
6432	明治40年	春の部	海苔やくや海苔とる海の目に浮	海苔	植物
6433	明治40年	春の部	凶年の落穂悲む田打かな	田打ち	人事
6434	明治40年	春の部	十人の田打必ず愚なるあり	田打ち	人事
6435	明治40年	春の部	田に田打常平倉の屋根に鶏	田打ち	人事
6436	明治40年	春の部	畑打が陳情表の話かな	畑打ち	人事
6437	明治40年	春の部	畑打に出でまくとすや朋來る	畑打ち	人事
6438	明治40年	春の部	古葉くゞる林中の水温みけり	水温む	地理
6439	明治40年	春の部	両三家めぐり来て里の水ぬるむ	水温む	地理
6440	明治40年	春の部	温む水に心驚く帰雁かな	水温む	地理
6441	明治40年	春の部	日々に伸びまさる菜や水ぬるむ	水温む	地理
6442	明治40年	春の部	伐尽す柴山の水温みけり	水温む	地理
6443	明治40年	春の部	春浅き宿や乏しき深山柴	春浅し	時候
6444	明治40年	春の部	戀猫の爪恐ろしく思ひけり	猫の戀	動物
6446	明治40年	春の部	天氣地氣啓蟄の日と成にけり	啓蟄	時候
6447	明治40年	春の部	芋々の草綿々のひばりかな	雲雀	動物
6448	明治40年	春の部	雪残る山見てひばり落る哉	雲雀	動物
6449	明治40年	春の部	何氏が発祥の地や雲雀なく	雲雀	動物
6450	明治40年	春の部	遠く遊ぶ牧守が子にひばり哉	雲雀	動物
6451	明治40年	春の部	ひばり落ついつこ雲雀の埒かな	雲雀	動物
6452	明治40年	春の部	西行がうしろに揚るひばり哉	雲雀	動物
6453	明治40年	春の部	ひばり野や我が見つゝ行く歌枕	雲雀	動物
6454	明治40年	春の部	畑あればひばり啼く川の中洲かな	雲雀	動物
6455	明治40年	春の部	ひばりより下に春く夕日かな	雲雀	動物
6456	明治40年	春の部	夕霞夕雲雀水流れけり	雲雀	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6457	明治40年	春の部	あき人は黄金もて梅を購へり	梅	植物
6458	明治40年	春の部	梅さげて人通りけり古本屋	梅	植物
6459	明治40年	春の部	北海の雪の便りや梅の花	梅	植物
6460	明治40年	春の部	種まいて暮るゝおそきを覚えけり	種蒔	人事
6461	明治40年	春の部	木の実植うる翁や花に誘はれず	木實植う	人事
6462	明治40年	春の部	木の実植ゑよ / \ と人のすゝめ哉	木實植う	人事
6463	明治40年	春の部	鶏合すんで花洛のくもりかな	鶏合	人事
6464	明治40年	春の部	花の歌雁の別に清らなる	帰る雁	動物
6465	明治40年	春の部	長閑さに桶の田螺を算へけり	田螺	動物
6466	明治40年	春の部	踏青のいつこの天や龍登る	龍登天	動物
6467	明治40年	春の部	芝に居る小弓の友や萩若葉	萩若葉	植物
6468	明治40年	春の部	洛中は早も日今や萩若葉	萩若葉	植物
6469	明治40年	春の部	萩若葉野路に相逢ふ春の人	萩若葉	植物
6470	明治40年	春の部	萩若葉詞人素より多病也	萩若葉	植物
6471	明治40年	春の部	人多情萩の若葉に苦吟かな	萩若葉	植物
6472	明治40年	春の部	胸中の磊塊蜂の巣に似たり	蜂の巣	動物
6473	明治40年	春の部	あるは蜂の趣を見る古人の句	蜂	動物
6474	明治40年	春の部	蜂巢ふ茨を剪って棄てにけり	蜂の巣	動物
6475	明治40年	春の部	大徳の蜂にさゝれずおはしけり	蜂	動物
6476	明治40年	春の部	小坊主が蜂を逃げゆく落花哉	蜂	動物
10657	明治40年	春の部	此濱の鯨少し冴え返り	鯨	動物
6759	明治41年	春の部	草の舎に隠れもなしや凧絵かく	凧	人事
6760	明治41年	春の部	時を得て蠢くものや水温む	水温む	地理
6761	明治41年	春の部	初雷や天下の句風新たなり	初雷	天文
6762	明治41年	春の部	初雷や勃然として臨池の興	初雷	天文
6763	明治41年	春の部	佛名に救はるゝ身や鐘かすむ	霞	天文
6764	明治41年	春の部	家居皆古風な里や鐘霞む	霞	天文
6765	明治41年	春の部	丘壑の情放散や鐘かすむ	霞	天文
6766	明治41年	春の部	一飯の供養に足るや鐘霞む	霞	天文
6767	明治41年	春の部	奥人の訥なる話鐘かすむ	霞	天文
6768	明治41年	春の部	鐘かすむ國土一草一伽藍	霞	天文
6769	明治41年	春の部	山河の岸うつ波や雉子とぶ	雉子	動物
6770	明治41年	春の部	拓き終へし地を見取図や日の永き	日永	時候
6771	明治41年	春の部	海棠や酒醒めて晝の衾あり	海棠	植物
6772	明治41年	春の部	望夫石ありし口碑や春の潮	春の潮	地理
6773	明治41年	春の部	魚戸蟹舎雁行く景と見えにけり	帰る雁	動物
6774	明治41年	春の部	異を樹つるにしもあらねど木芽和	木芽和	人事
6775	明治41年	春の部	野遊の荷物にしたり筆硯	野遊	人事
6776	明治41年	春の部	野遊の此道よりす柳かな	野遊	人事
6777	明治41年	春の部	野遊にかの道人をさそひけり	野遊	人事
6778	明治41年	春の部	野遊の沼見めぐりぬ男衆	野遊	人事
6779	明治41年	春の部	野遊や路に詣づる神社	野遊	人事
6780	明治41年	春の部	野遊や人に秘めたる歌袋	野遊	人事
6781	明治41年	春の部	野遊に弓引く男子戀にけり	野遊	人事
6782	明治41年	春の部	野遊やげん / \ 尽きて大堰川	野遊	人事
6783	明治41年	春の部	野遊の雪白き山を畏れけり	野遊	人事
6784	明治41年	春の部	雨けぶる日や野遊の序を草す	野遊	人事
6785	明治41年	春の部	褒貶に耳傾けず干鱈買ふ	干鱈	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6786	明治41年	春の部	花落ちて辛夷に実なし干鱈さく	干鱈	人事
6787	明治41年	春の部	棒鱈の荷も片づきぬ初つばめ	燕	動物
6788	明治41年	春の部	炉火灰となりて鶯庭に来る	鶯	動物
6789	明治41年	春の部	忽然と鶯さくや著作堂	鶯	動物
6790	明治41年	春の部	谷水の窮み鶯遷りけり	鶯	動物
6791	明治41年	春の部	鶯や木履の音も例の刻	鶯	動物
6792	明治41年	春の部	崇なき伐木や鶯の啼く	鶯	動物
6793	明治41年	春の部	薬の瑞の木原や兎の子	薬	植物
6794	明治41年	春の部	薬の藜々として春の水	薬	植物
6795	明治41年	春の部	薬も女の丈けに柳かな	薬	植物
6796	明治41年	春の部	古梅の終に薬なかりけり	薬	植物
6797	明治41年	春の部	薬も遺さずと斧揮ひけり	薬	植物
6798	明治41年	春の部	花さくと魂まねげ帰る雁	帰る雁	動物
6799	明治41年	春の部	五文たこ三文たこと揚りけり	凧	人事
6800	明治41年	春の部	人鮎を汲む鳥花を喰ふ日哉	鮎汲み	人事
6801	明治41年	春の部	鮎の子や御幸の沙汰もほのかにて	小鮎	動物
6802	明治41年	春の部	餌をくふとしもなく小鮎つられけり	小鮎	動物
6803	明治41年	春の部	鮎汲を見て小謡や桜川	鮎汲み	人事
6804	明治41年	春の部	貫之が假名ふみに入る小鮎哉	小鮎	動物
6805	明治41年	春の部	初雷や腹案の句の一頓挫	初雷	天文
6806	明治41年	春の部	汲鮎を三つに分つや風光る	鮎汲み	人事
6807	明治41年	春の部	薪とる山賤にして鮎を汲む	鮎汲み	人事
6808	明治41年	春の部	春惜む心に鮎を汲にけり	鮎汲み	人事
6809	明治41年	春の部	若鮎に恋々として都鳥	小鮎	動物
6810	明治41年	春の部	小鮎釣に上ると雨日閑話哉	小鮎	動物
6811	明治41年	春の部	兎狩りし岨も平も雪解かな	雪解	地理
6812	明治41年	春の部	官山に人入る遅き雪げかな	雪解	地理
6813	明治41年	春の部	水の辺りありく畑地の雪げ哉	雪解	地理
6814	明治41年	春の部	伐出しの節木残りて雪解哉	雪解	地理
6815	明治41年	春の部	市も立つ山の驛の雪解哉	雪解	地理
6816	明治41年	春の部	老いたるを牽いて馬耕や辛夷咲く	辛夷	植物
6817	明治41年	春の部	荒蕪地に鋤入式や辛夷さく	辛夷	植物
6818	明治41年	春の部	山僧愚なれど俗ならず辛夷さく	辛夷	植物
6819	明治41年	春の部	廃したる炭がま興す辛夷哉	辛夷	植物
6820	明治41年	春の部	ありなしの落魄や門の古辛夷	辛夷	植物
6821	明治41年	春の部	法事過ぎて人に分ちぬ漆種	種物	人事
6822	明治41年	春の部	隣人に種物惜むそしりあり	種物	人事
6823	明治41年	春の部	しらべ洩の種や椽の実一吠	種物	人事
6824	明治41年	春の部	種物の事方丈と挨拶す	種物	人事
6825	明治41年	春の部	雨讀の閑種物の名を想出づ	種物	人事
6826	明治41年	春の部	山僧の大愚辛夷の花も知らず	辛夷	植物
6827	明治41年	春の部	山吹や水に及ばぬ野火の痕	山吹	植物
6828	明治41年	春の部	山吹や寺に故実の經供養	山吹	植物
6829	明治41年	春の部	山吹や馬はあれども伊賀吟行	山吹	植物
6830	明治41年	春の部	山吹や執筆中の五元集	山吹	植物
6831	明治41年	春の部	長者屋しき山吹さくを古跡哉	山吹	植物
6832	明治41年	春の部	青き踏む貴妃を扶けて遅れけり	踏青	人事
6833	明治41年	春の部	踏青の水に逢うて且つ迂回せり	踏青	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
6834	明治41年	春の部	踏青や閑雲の景野鶴の情	踏青	人事
6835	明治41年	春の部	踏青の叉路や文武の子	踏青	人事
6836	明治41年	春の部	雪の山の一角も見て青き踏む	踏青	人事
6838	明治41年	春の部	蝦夷が子の摘み残しけむ露のとう	露の臺	植物
7036	明治42年	春の部	拓本の大きさも希有梅の花	梅	植物
7037	明治42年	春の部	早起の箴奴も写す梅の花	梅	植物
7038	明治42年	春の部	澗黙も一家の規模や梅の花	梅	植物
7039	明治42年	春の部	朝奇晩奇只主人知る梅の花	梅	植物
7040	明治42年	春の部	三冬に研り残す朱や梅の花	梅	植物
7041	明治42年	春の部	句意画意のいつこ融会や梅一枝	梅	植物
7042	明治42年	春の部	蹇の僧猶住めり軒の梅	梅	植物
7043	明治42年	春の部	橋架す奇風遣れり峽の梅	梅	植物
7044	明治42年	春の部	飼鶏の同じ羽色や梅の宿	梅	植物
7045	明治42年	春の部	飯喰へど鄙しとなさず梅の主	梅	植物
7046	明治42年	春の部	閑成て記を作らしむ雉子の声	雉子	動物
7047	明治42年	春の部	三日つゞく土豪の宴雉子啼く	雉子	動物
7048	明治42年	春の部	雉子撃って新妻故に帰りけり	雉子	動物
7049	明治42年	春の部	雁風呂や今様の美女三五人	雁風呂	人事
7050	明治42年	春の部	炉塞や耳目に潜む風邪の氣	爐塞	人事
7051	明治42年	春の部	餅賣と約束事や麦を踏む	麥踏	人事
7052	明治42年	春の部	流行唄村にも流行る雪げかな	雪解	地理
7053	明治42年	春の部	本草も我一代や二日灸	二日灸	人事
7054	明治42年	春の部	溶き分けて浴き絵具や山笑ふ	山笑う	地理
7055	明治42年	春の部	手をあげて乳母言傳や山笑ふ	山笑う	地理
7057	明治42年	春の部	城の窓麦の青きを望みけり	麦青む	植物
7058	明治42年	春の部	青麦に澄みぬきのふの雪げ水	麦青む	植物
7059	明治42年	春の部	青麦に水鳥の目のかすみかな	麦青む	植物
7060	明治42年	春の部	事なきにきづく用意や麦青し	麦青む	植物
7061	明治42年	春の部	神宮の手斧の音や春の麦	麦青む	植物
7062	明治42年	春の部	城きづく坐上図解や大石忌	大石忌	人事
7063	明治42年	春の部	自他心事棋子黑白や大石忌	大石忌	人事
7064	明治42年	春の部	眉目相照す花あり大石忌	大石忌	人事
7065	明治42年	春の部	編笠に軽重の論や大石忌	大石忌	人事
7066	明治42年	春の部	文の波瀾帰雁の事や大石忌	大石忌	人事
7067	明治42年	春の部	蛙子や臨池一日一字づゝ	蝌蚪	動物
7068	明治42年	春の部	諳ンずる長恨歌詞や半仙戯	鞦韆	人事
7069	明治42年	春の部	菊根分終りて次韻却寄哉	菊根分	人事
7070	明治42年	春の部	詠ミ歌の贈答體に遅日哉	遅日	時候
7071	明治42年	春の部	家富めば古式すたれぬ竹の秋	竹の秋	植物
7072	明治42年	春の部	宝印と縛印と彼岸團子哉	彼岸	人事
7073	明治42年	春の部	眉剃りて彼岸の花につとひけり	彼岸	人事
7074	明治42年	春の部	灣をなすところ丘あり春の海	春の海	地理
7075	明治42年	春の部	豫め定まる帰期や春の海	春の海	地理
7076	明治42年	春の部	花衣着ぬきの冷や田螺和	田螺和	人事
7077	明治42年	春の部	水城跡石高々と田螺かな	田螺	動物
7078	明治42年	春の部	人送り出でし話頭の田螺かな	田螺	動物
7079	明治42年	春の部	民の疾苦田螺の事も問にけり	田螺	動物
7080	明治42年	春の部	嶋を負ふ家居田螺も賣に来る	田螺	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7082	明治42年	春の部	鹿放つよしを庭見の麗かに	麗	時候
7083	明治42年	春の部	湖の雑魚煮れば湖草も麗かに	麗	時候
7084	明治42年	春の部	馬士よべどあらず道もせにちる李	李の花	植物
7085	明治42年	春の部	草つむも駐蹕の地のほとり哉	摘草	人事
7086	明治42年	春の部	湖の魚珍らかに見て春惜む人	春惜む	時候
7087	明治42年	春の部	又一人の弟子遠島や暮るゝ春	暮春	時候
7088	明治42年	春の部	醍醐寺の埒の大破も暮るゝ春	暮春	時候
7089	明治42年	春の部	答うつ刑も昔に春暮れぬ	暮春	時候
7090	明治42年	春の部	奥書も断簡の部や春暮るゝ	暮春	時候
7091	明治42年	春の部	子に似ぬ子と思寐や暮るゝ春	暮春	時候
7092	明治42年	春の部	簀の上の森吉の雪や苗代田	苗代	地理
7093	明治42年	春の部	苗代も見て後園日に渉る	苗代	地理
7094	明治42年	春の部	苗代の萌ゆるや古碑の苔も掃く	苗代	地理
7095	明治42年	春の部	苗代やけふ造林の山を出る	苗代	地理
7096	明治42年	春の部	風除けの林の禽や苗代田	苗代	地理
7097	明治42年	春の部	山吹に短き悔いぬ舟の棹	山吹	植物
7098	明治42年	春の部	山吹や馬腹に及ぶ溢れ水	山吹	植物
7099	明治42年	春の部	山吹に日和見鴉とも見ゆる	山吹	植物
7100	明治42年	春の部	山吹の山孤峭なる身冷哉	山吹	植物
7101	明治42年	春の部	山吹や岩魚捕る約に人をまつ	山吹	植物
7102	明治42年	春の部	境論の立別れゆくつゝじかな	躑躅	植物
7103	明治42年	春の部	高山を遥拜の野のつゝじ哉	躑躅	植物
7104	明治42年	春の部	帽子手巾つゝじ野深く人遊ぶ	躑躅	植物
7105	明治42年	春の部	水飲みに下るもつゝじがくれかな	躑躅	植物
7106	明治42年	春の部	つゝじ野にいつこ来て去る奔馬哉	躑躅	植物
7203	明治43年	春の部	二三子茲に弓勢見よや梅の花	梅	植物
7204	明治43年	春の部	立春大吉堂に八十八の人	立春	時候
7205	明治43年	春の部	日本刀の歌傳唱や寒食す	寒食	人事
7206	明治43年	春の部	木隠れし君を二度半仙戯	鞦韆	人事
7207	明治43年	春の部	秋千に酔発す花の雪ちるに	鞦韆	人事
7208	明治43年	春の部	ふらこゝに見る店頭の餅白き	鞦韆	人事
7209	明治43年	春の部	一山紫一水明や秋千に	鞦韆	人事
7210	明治43年	春の部	あなかしこ戀猫の句を扇面に	猫の戀	動物
7211	明治43年	春の部	遠忌果てゝ氣安覚えぬ猫の戀	猫の戀	動物
7212	明治43年	春の部	雪汁に渴きあさまし猫の夫	猫の戀	動物
7213	明治43年	春の部	作家手段粉黛の字や猫の妻	猫の戀	動物
7214	明治43年	春の部	雪顔跡に三家挙るや猫の恋	猫の戀	動物
7215	明治43年	春の部	馬も野へ牛も野へ誰ぞふらこゝに	鞦韆	人事
7216	明治43年	春の部	ふらこゝに上る鶏鳴吠の徒	鞦韆	人事
7217	明治43年	春の部	字句を求めて春雷飛と得たりけり	春雷	天文
7218	明治43年	春の部	寤寐に之を求むれど得ず水温む	水温む	地理
7219	明治43年	春の部	仿古詩牋歡会の桃と紅に	桃	植物
7220	明治43年	春の部	人を送る詩の一格や春の霜	春霜	天文
7221	明治43年	春の部	画眉郎の嘲解かむ長閑さに	長閑	時候
7222	明治43年	春の部	古人既に山相論や里長閑	長閑	時候
7223	明治43年	春の部	暗算にこの魯鈍さよ宵長閑	長閑	時候
7224	明治43年	春の部	猫の子等の雌にのみ名づく長閑也	長閑	時候
7225	明治43年	春の部	餌につかぬ魚を悪むや水長閑	長閑	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7226	明治43年	春の部	耳穴の痒き同病長閑なる	長閑	時候
7227	明治43年	春の部	今の世に異形相の人よ長閑なる	長閑	時候
7228	明治43年	春の部	文庫蹟ものどか諸子木百家草	長閑	時候
7229	明治43年	春の部	弁木猶藏書の如し庭長閑	長閑	時候
7230	明治43年	春の部	人やある例の大笑寺長閑	長閑	時候
7231	明治43年	春の部	花にさそへば笠縫うて居る人つれな	花	植物
7232	明治43年	春の部	掃苔会一樹の花にこぞりけり	花	植物
7233	明治43年	春の部	一搏の鳥にかほどの落花哉	落花	植物
7234	明治43年	春の部	一韵十疊満都の花に傳唱す	花	植物
7235	明治43年	春の部	水石の奇趣に蝦夷名や山櫻	山櫻	植物
7236	明治43年	春の部	十日すぎて見る野火埃水温む	水温む	地理
7237	明治43年	春の部	勸農譚皆耳寄せて水温む	水温む	地理
7238	明治43年	春の部	鋤ぶりも遺制めくあり温む水	水温む	地理
7239	明治43年	春の部	流るゝもの卑きについて水温む	水温む	地理
7240	明治43年	春の部	枝に鳥の徒に居る見ゆ温む水	水温む	地理
7241	明治43年	春の部	熱喝に耳ほがらなり山笑ふ	山笑う	地理
10610	明治43年	春の部	稀に入れば柳散ると云ふ	柳	植物
7307	明治44年	春の部	親によく肖て四ツ白の麗かに	麗	時候
7309	明治44年	春の部	亀鳴くよ塔一見の本望に	亀鳴く	動物
7310	明治44年	春の部	亀鳴くや紙に記せば断碑考	亀鳴く	動物
7312	明治44年	春の部	火口作る家傳も徒に桃の花	桃	植物
7313	明治44年	春の部	酔ひて後又の日の桃見約しけり	桃	植物
7314	明治44年	春の部	酒の名に典故あり桃葉勝にて	桃	植物
7315	明治44年	春の部	桃散るや貨すまじき馬書借に来る	桃	植物
7316	明治44年	春の部	三日の徭役果てゝ桃の宿	桃	植物
7317	明治44年	春の部	媚ぶと貶す人すげなくも桃の花	桃	植物
7318	明治44年	春の部	ある時は師や媿々として桃の花	桃	植物
7319	明治44年	春の部	末子の事又念頭に桃の花	桃	植物
7320	明治44年	春の部	緋桃白桃家道復び盛ン也	桃	植物
7322	明治44年	春の部	聖徳は飽まで桃に睡りけり	桃	植物
7324	明治44年	春の部	一鳥も一魚も縁に木芽ふく	木の芽	植物
7326	明治44年	春の部	晴耕の心魚鳥と相照す	耕	人事
7327	明治44年	春の部	春田打ちし疲や関す金蘭簿	田打ち	人事
7329	明治44年	春の部	片言を交して花に急ぐ人	花	植物
7330	明治44年	春の部	行春と題して筆を擱きにけり	行春	時候
7331	明治44年	春の部	行春と題す乃ち筆をおく	行春	時候
7333	明治44年	春の部	君に手紙書き了へて石竹を植う	石竹植う	人事
7416	明治45年	春の部	天斧山脈を断つ東風吹息まず	東風	天文
7417	明治45年	春の部	春寒し今到着の書册積む	春寒	時候
7418	明治45年	春の部	京よりの封筒よ文字よ春の雪	春雪	天文
7420	明治45年	春の部	桃の花はかくて千載不易なる	桃	植物
7424	明治45年	春の部	君が意蓋し霞を盛れとこそ	霞	天文
7426	明治45年	春の部	木實植て倦まず鳥鳴く諸声に	木實植う	人事
7428	明治45年	春の部	魂や遊ぶ画譜の花鳥の蝕みし	花	植物
7552	大正2年	春の部	装幀に天覧思ふ春寒き	春寒	時候
7553	大正2年	春の部	回覧集などてか遅き春寒に	春寒	時候
7554	大正2年	春の部	花鳥画いて小婢に與ふ春寒く	春寒	時候
7557	大正2年	春の部	夜学日の間遠に菜種花となる	菜の花	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7562	大正2年	春の部	春雷の杉に五尺の尖りかな	春雷	天文
7563	大正2年	春の部	春雷や根芹掘る水のむら濁	春雷	天文
7565	大正2年	春の部	魂語録に來り臨めり春の風	春風	天文
7566	大正2年	春の部	東風高し大衆旗鼓に法の陣	東風	天文
7567	大正2年	春の部	兵談も海國の事爐塞げり	爐塞	人事
7568	大正2年	春の部	爐塞げば知る山の暗水の明	爐塞	人事
7570	大正2年	春の部	暮遅きためし見む花間に竹外に	遅日	時候
7572	大正2年	春の部	人に知る知らぬあり只春惜む	春惜む	時候
7574	大正2年	春の部	春雨の泥乾き大鳥も飛ぶ	春雨	天文
7575	大正2年	春の部	春雨帰庵茸作る術を見て	春雨	天文
7576	大正2年	春の部	恩に狎るゝ下部あり春雨の泥	春雨	天文
7577	大正2年	春の部	隣畑に籬取り去りぬ春の雨	春雨	天文
7578	大正2年	春の部	春雨霏々社中帰省の一人欽ぐ	春雨	天文
7579	大正2年	春の部	鋤鍛冶の今日も打たずよ春の雨	春雨	天文
7581	大正2年	春の部	燕來しと見て遠眺を再びす	燕	動物
7583	大正2年	春の部	何に吹く貝の音つやぞ風光る	風光る	天文
7584	大正2年	春の部	陽炎に何語りけむ唇ぞ	陽炎	天文
7585	大正2年	春の部	水に棲む物皆に水温みけり	水温む	地理
7586	大正2年	春の部	暖に天地生々の心あり	暖	時候
7587	大正2年	春の部	耳目具して蟄虫の出づ霞哉	霞	天文
7588	大正2年	春の部	日治し片栗の葉に花に葉に	片栗の花	植物
7589	大正2年	春の部	槻若葉郷先生を傳す誰ぞ	若葉	植物
7590	大正2年	春の部	高津島も這ふ虫も秋を知れとこそ	秋	時候
7591	大正2年	春の部	露輕し籬に傍うて虫の飛ぶ	露	天文
7592	大正2年	春の部	未枯や里に歸れば古き唄	未枯	植物
7593	大正2年	春の部	落日や凧の跡の土じめり	凧	天文
7690	大正3年	春の部	雛衣とならましを雛近きもの	雛祭	人事
7692	大正3年	春の部	君をほぐ季無からめや啓蟄の頃	啓蟄	時候
7694	大正3年	春の部	地の下に物あり雪の上に耀きぬ	雪	天文
7700	大正3年	春の部	顔に淡雪今ふりし壁土思ふ	淡雪	天文
7701	大正3年	春の部	ごうと鳴る風に非ず冴返る空	冴返	時候
7702	大正3年	春の部	凍霧透きて火赤く烟三ところ	凍霧	天文
7703	大正3年	春の部	地に布ける淡雪亀裂さながらに	淡雪	天文
7704	大正3年	春の部	又震るかに東風吹く雲と木の末と	東風	天文
7705	大正3年	春の部	崖崩れ掘る鋤戛と残雪に	残雪	地理
7706	大正3年	春の部	大地裂けたり蔭のとう活々と	蔭の臺	植物
7707	大正3年	春の部	陽炎に包まれて老と幼と居り	陽炎	天文
7708	大正3年	春の部	假橋に蹊作す春の水とぞろ	春の水	地理
7709	大正3年	春の部	萌えがてに死ぬる草黝の沙湧いて	草萌	植物
7710	大正3年	春の部	着膨レ悔ゆ春川渡る鹿島立	春の川	地理
7711	大正3年	春の部	家に帰りて雀の巢屑又掃きぬ	雀の巢	動物
7712	大正3年	春の部	帆にあまる風や木芽張る岸高を	木の芽	植物
7714	大正3年	春の部	雨に冷ゆる人々の顔花暗し	花	植物
7715	大正3年	春の部	悲しき事を教へられつ草摘む子	摘草	人事
7716	大正3年	春の部	牡丹彫る鑿やゝ鈍り春埃	春塵	天文
7717	大正3年	春の部	土膨るゝと見て畑打つ力かな	畑打ち	人事
7718	大正3年	春の部	一ツ來る春の蚊夜雨只土の知る	春の蚊	動物
7720	大正3年	春の部	神わざの鳥の巢毀つこと勿れ	鳥の巢	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7721	大正3年	春の部	鳥已に巢へりかほど草萌えし	鳥の巢	動物
7722	大正3年	春の部	脈々の暖かさ巢鳥獨知る	鳥の巢	動物
7723	大正3年	春の部	禿筆に宿墨に春の惜まるゝ	春惜む	時候
7724	大正3年	春の部	善く割るゝ薪にも春を惜む人	春惜む	時候
7725	大正3年	春の部	遂に言はで只管に春を惜む哉	春惜む	時候
7726	大正3年	春の部	春惜む唱酬秘むとなき夜半に	春惜む	時候
7727	大正3年	春の部	鳥の名を知らずして徒に春惜む	春惜む	時候
7729	大正3年	春の部	乗合の話柄轉ず山つゝじ濃き	躑躅	植物
7765	大正4年	春の部	高東風の旦より良く啼く子とぞ	東風	天文
7766	大正4年	春の部	山に樹大きく春立つ北國ハ	立春	時候
7767	大正4年	春の部	枝も伐るをゆるさぬ杉や凧	凧	人事
7769	大正4年	春の部	踊るべき人誰々を想ひけり	踊	人事
7771	大正4年	春の部	快し春寒けれど日の光	春寒	時候
7773	大正4年	春の部	陽炎の今ぞ木にもゆ草にもゆ	陽炎	天文
7774	大正4年	春の部	この國の地氣動くところ露のとう	露の臺	植物
7776	大正4年	春の部	春天雪舞ひ帰雁咽ぶかな	春の空	天文
7778	大正4年	春の部	東風つゝく三日よ木實植てより	東風	天文
7780	大正4年	春の部	鳥は巢を得たり木魚稀にうつ	鳥の巢	動物
7782	大正4年	春の部	連翹や鳥海の雪目に痛き	連翹	植物
7784	大正4年	春の部	あぢきなし花見の記にも君が事	花見	人事
7788	大正4年	春の部	妙境は木蓮に春の雲舞ハむ	春の雲	天文
7790	大正4年	春の部	鶯や朝茶の烟断ゆる時	鶯	動物
7877	大正5年	春の部	立春大吉の中の枯木かな	立春	時候
7878	大正5年	春の部	春寒の土踏みて在り讀書人	春寒	時候
7879	大正5年	春の部	春寒に一人殖ゑたる針子哉	春寒	時候
7880	大正5年	春の部	大凍の中に庭柳春めきぬ	春めく	時候
7881	大正5年	春の部	夕凍に瀬鳴り迫るが如く覚ゆ	凍返る	地理
7882	大正5年	春の部	雪解遅く國中を山の鎮めかな	雪解	地理
7883	大正5年	春の部	兒等叫ぶ一しきり雪解の館の下	雪解	地理
7884	大正5年	春の部	寒ん明けの雪垣をもる日ざしかな	餘寒	時候
7885	大正5年	春の部	伐木丁々たり東風渡る山	東風	天文
7886	大正5年	春の部	北人や二月佳節の顔白し	二月	時候
7887	大正5年	春の部	佳節の氣象地に青き露の臺	露の臺	植物
7888	大正5年	春の部	佳節遊ぶ青年どもや春寒を	春寒	時候
7889	大正5年	春の部	仆れ樹の生き / \ とあり氷解く	氷解	地理
7890	大正5年	春の部	社木のみ伐残されつ春吹雪	春吹雪	天文
7891	大正5年	春の部	一方の青天濃きに春の雪	春雪	天文
7892	大正5年	春の部	臼木にと切放す木口東風過る	東風	天文
7893	大正5年	春の部	上國の梅信は是風邪の神	梅	植物
7894	大正5年	春の部	火燃ゆ活々と凍霧に住む人等	凍霧	天文
7895	大正5年	春の部	兒好くて凍霧の中來る女かな	凍霧	天文
7896	大正5年	春の部	凍霧晴れて日は南なる人の顔	凍霧	天文
7897	大正5年	春の部	氷解くる此池の魚数知れず	氷解	地理
7898	大正5年	春の部	日の雪解夜の流レとなりにけり	雪解	地理
7899	大正5年	春の部	雪解踏來る杣が妻子を見迎へぬ	雪解	地理
7900	大正5年	春の部	啓蟄の日の正午かな雪間水	啓蟄	時候
7901	大正5年	春の部	山迢かにして東風吹くこと長し	東風	天文
7903	大正5年	春の部	千竿の竹の影舞ふ朧月	朧月	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7904	大正5年	春の部	山峻しく水急に涅槃會すぎぬ	涅槃會	人事
7905	大正5年	春の部	風反りの樹や春淺き流レ雲	春淺し	時候
7906	大正5年	春の部	學校の卒業式や春の雪	春雪	天文
7907	大正5年	春の部	路砂利の幾度春の雪に日に	春雪	天文
7908	大正5年	春の部	卒業の茶話會や春淺き雨	春淺し	時候
7910	大正5年	春の部	柳已に青し汝が帽影に	柳	植物
7912	大正5年	春の部	人々の拳陽炎もゆるかな	陽炎	天文
7913	大正5年	春の部	山少し焼くるに昼餉食ひ居たり	野山焼	人事
7914	大正5年	春の部	古葉くどり旧根に及ぶ春の水	春の水	地理
7915	大正5年	春の部	山下行く我に春山の女唄ふ	春の山	地理
7916	大正5年	春の部	岸辺樹々の枝間朗らに春の水	春の水	地理
7917	大正5年	春の部	絲遊や夜雨に浸りし種俵	陽炎	天文
7918	大正5年	春の部	春一樹二樹に芥焼くけふり	春	時候
7919	大正5年	春の部	村文庫蛙鳴く田の邊り也	蛙	動物
7920	大正5年	春の部	草萌ゆる頃又動く讀書慾	草萌	植物
7921	大正5年	春の部	草もゆる見て我草鞋足すゝむ	草萌	植物
7922	大正5年	春の部	鶯や止まって潭となるところ	鶯	動物
7923	大正5年	春の部	道に一人端山鶯きゝにけり	鶯	動物
7924	大正5年	春の部	書樓近く巢作る雀恣マ	雀の巢	動物
7925	大正5年	春の部	矢根石拾ふ頭上を轉りぬ	轉	動物
7926	大正5年	春の部	鶯や首を回らせば天空し	鶯	動物
7927	大正5年	春の部	我と共にこの一國の霞みけり	霞	天文
7928	大正5年	春の部	山は山河は河なる霞かな	霞	天文
7929	大正5年	春の部	地にもゆる我も / \ と土筆	土筆	植物
7930	大正5年	春の部	耕人の目に鳥海の雪かすむ	霞	天文
7931	大正5年	春の部	堆きままでに落花を掃きあつむ	落花	植物
7932	大正5年	春の部	巢籠の雀を襲ふ風落花	雀の巢	動物
7933	大正5年	春の部	納屋の前花散りつもる炭俵	落花	植物
7934	大正5年	春の部	風雨叩く櫻を望むがらす窓	櫻	植物
7935	大正5年	春の部	蕨伸る日照りに鳴るや蕨枯葉	蕨	植物
7936	大正5年	春の部	折るとしもなき早蕨の把に盈つる	蕨	植物
7937	大正5年	春の部	野路一人雉子鳴く方を後ろにす	雉子	動物
7938	大正5年	春の部	樹に草に行春の雨斜なる	行春	時候
7939	大正5年	春の部	神鳴りて天氣変りぬ梨の花	梨の花	植物
7940	大正5年	春の部	隣隔つ生垣深く春暮る	暮春	時候
7941	大正5年	春の部	雀子と大根の花と風雨かな	雑	雑
7942	大正5年	春の部	蕨狩の女に守る古渡シ	蕨狩	人事
8079	大正6年	春の部	柳の芽露の臺我と相知りぬ	雑	雑
8080	大正6年	春の部	東風の里雪穴日々に毀たるゝ	東風	天文
8081	大正6年	春の部	氷解くる池の面の風を迎へけり	氷解	地理
8085	大正6年	春の部	大方の柳芽ぐむに涙かな	柳の芽	植物
8086	大正6年	春の部	翔りゆく白鳥二ツ春の水	春の水	地理
8087	大正6年	春の部	我が立つを巢の營みの雀飛ぶ	雀の巢	動物
8088	大正6年	春の部	禽一時柴刈人に轉りぬ	轉	動物
8089	大正6年	春の部	草萌時渡シの舩の遅き待つ	草萌	植物
8090	大正6年	春の部	澤水の早さに堪へて露の臺	露の臺	植物
8091	大正6年	春の部	柳垂るゝ處我が立つ星の春	春の星	天文
8092	大正6年	春の部	提灯にからびたり春の泥一片	春泥	地理

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8093	大正6年	春の部	春の泥乾くや燕とぶはじめ	春泥	地理
8094	大正6年	春の部	庭の松に來鳴く鶯書に親し	鶯	動物
8095	大正6年	春の部	當面の山焼くる見て書を釋てつ	野山焼	人事
8096	大正6年	春の部	大衆ハ知らず斷崖の花辛夷	辛夷	植物
8097	大正6年	春の部	木の芽吹いて禽もろ / \ が口を張る	木の芽	植物
8099	大正6年	春の部	山門の一偈木芽のもろ / \ に	木の芽	植物
8101	大正6年	春の部	鶯の耳に徹して痕もなし	鶯	動物
8103	大正6年	春の部	雑草に山吹白し垣日向	山吹	植物
8232	大正7年	春の部	子等の顔に啓蟄近き日の色よ	啓蟄	時候
8233	大正7年	春の部	この雨に雪減る上を歩みけり	雪解	地理
8234	大正7年	春の部	栗枯木雪解の烟立つ中に	雪解	地理
8235	大正7年	春の部	腹案を筆す物皆冴返る	冴返	時候
8236	大正7年	春の部	雪の底笈溢るゝ雪解哉	雪解	地理
8237	大正7年	春の部	太古史を讀む屋外の雪解哉	雪解	地理
8238	大正7年	春の部	山辺雪解を見て日毎往還す	雪解	地理
8240	大正7年	春の部	大樹の下兒孫額づくや露のとう	露の臺	植物
8241	大正7年	春の部	まれ人と夜座寛ぐや猫の戀	猫の戀	動物
8242	大正7年	春の部	鳥已に蹠を印す雪間草	雪間草	植物
8243	大正7年	春の部	残雪の人脅かすゆゝしさよ	残雪	地理
8244	大正7年	春の部	野蒜掘戀猫の宿へ戻る也	野蒜	植物
8245	大正7年	春の部	野蒜もゆる彼方伐木の群衆かな	野蒜	植物
8246	大正7年	春の部	春風や雪垣解けバ山見ゆる	春風	天文
8247	大正7年	春の部	雪垣の跡や柳の緑匂ふ	柳	植物
8248	大正7年	春の部	百千鳥處を得たり巨樹細柯	百千鳥	動物
8249	大正7年	春の部	春風に猶冷ゆらんぞ雲雀の巢	雲雀の巢	動物
8251	大正7年	春の部	花鳥の魂こぞる朧かな	朧	天文
8253	大正7年	春の部	耳近に鳴く鶯や山の鼻	鶯	動物
8255	大正7年	春の部	雛の日や先祖の話一くさり	雛祭	人事
8257	大正7年	春の部	畑の土膨れつくして春のゆく	行春	時候
8258	大正7年	春の部	路傍や末黒うすれて春の行く	行春	時候
8259	大正7年	春の部	行春や嬌々として鳥の飛ぶ	行春	時候
8260	大正7年	春の部	春を惜む心友二人夜學かな	春惜む	時候
8261	大正7年	春の部	行春の鳥の啄む水泡かな	行春	時候
8262	大正7年	春の部	醉酣に暴風雨中春惜む	春惜む	時候
8263	大正7年	春の部	土くれも我が手も硬し暮るゝ春	暮春	時候
8264	大正7年	春の部	平準の水に岸辺の春くるゝ	暮春	時候
8265	大正7年	春の部	行春や徒に伸びたる藥草	行春	時候
8266	大正7年	春の部	水あれば葉廣水草春老いし	行春	時候
8267	大正7年	春の部	この花に鮮魚の價貴けれ	花	植物
8268	大正7年	春の部	貧しくて年経る家や花大根	大根の花	植物
8269	大正7年	春の部	晝の戸に李の花香漾へり	李の花	植物
8270	大正7年	春の部	籬ともなく朽木横はる春の艸	春の草	植物
8271	大正7年	春の部	少間を摘むべき草のほゝけたり	摘草	人事
8272	大正7年	春の部	蕨五六本椎茸一つ握りつゝ	蕨	植物
8419	大正8年	春の部	土につく我足うれし露のとう	露の臺	植物
8420	大正8年	春の部	雪解靄中に枯木と我と哉	雪解	地理
8421	大正8年	春の部	春淺き枯木の苔の美しくしや	春淺し	時候
8422	大正8年	春の部	露のとう苦きに美酒や春淺き	春淺し	時候

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8423	大正8年	春の部	啄木鳥を徒に見てすぐ春淺き	春淺し	時候
8424	大正8年	春の部	春淺き土や大樹の根の邊り	春淺し	時候
8425	大正8年	春の部	春淺し水鳥春の水をくゞる	春淺し	時候
8426	大正8年	春の部	一日着て一日掛く春淺き漁簞	春淺し	時候
8427	大正8年	春の部	春淺き庭の主や古椿	春淺し	時候
8428	大正8年	春の部	春淺し鉄砲ひゞく田螺の戸	春淺し	時候
8429	大正8年	春の部	古藻ながらの湖の魚買ふ春淺き	春淺し	時候
8430	大正8年	春の部	春はやも山の黛濃き日哉	早春	時候
8432	大正8年	春の部	もえいづる草に不覺の泪かな	草萌	植物
8433	大正8年	春の部	岡邊行く子等や木芽の競ひふく	木の芽	植物
8434	大正8年	春の部	木芽ふけよ / \ と鳥の諸音哉	木の芽	植物
8435	大正8年	春の部	木芽固し卒業式の人々に	木の芽	植物
8436	大正8年	春の部	木芽垣に師弟別を惜しみけり	木の芽	植物
8437	大正8年	春の部	氏神に不時の詣や木芽もゆ	木の芽	植物
8438	大正8年	春の部	舟上る遅々柳の芽ふくれをり	柳の芽	植物
8439	大正8年	春の部	遅き早き木芽に雪の淡々し	木の芽	植物
8440	大正8年	春の部	樹々の芽のふく音か雨けふる中	木の芽	植物
8441	大正8年	春の部	木芽つめばよべの雨露含みをり	木の芽	植物
8443	大正8年	春の部	命長き椎や梢の百千鳥	百千鳥	動物
8445	大正8年	春の部	朝鮮の桃種植ゑつ此土に	花種蒔く	人事
8446	大正8年	春の部	木芽ふくや冷たくなりし野火の痕	木の芽	植物
8447	大正8年	春の部	犬鈍に鶏輕し桑もえ出でゝ	桑の芽	植物
8449	大正8年	春の部	日遅々たり椿赤きに水流れ	遅日	時候
8451	大正8年	春の部	庭の内外うからやからにはつ燕	燕	動物
8452	大正8年	春の部	墓木より春雨垂るに孫ら子ら	春雨	天文
8454	大正8年	春の部	朝鳥の花に羽たゞく目ざましき	花	植物
8455	大正8年	春の部	笙箏築神格りますや花の雲	花	植物
8456	大正8年	春の部	我家の水や花見の足すゞ	花見	人事
8457	大正8年	春の部	蠟燭の花に冷えゆく端居哉	花	植物
8458	大正8年	春の部	花の泥を厭ひ水ナ上遠くゆく	花	植物
8459	大正8年	春の部	此山を出でじと花に又思ふ	花	植物
8460	大正8年	春の部	大雨の中獨遊べり花の魂	花	植物
8462	大正8年	春の部	陽炎のまに / \ 遊ぶ魂を思ふ	陽炎	天文
8463	大正8年	春の部	花寒き心書樓にこもりけり	花	植物
8464	大正8年	春の部	田打ども我庭の花見て過ぐる	花	植物
8466	大正8年	春の部	花に來て蛙の客となりけり	花	植物
8468	大正8年	春の部	皆人の春惜む中の蛙哉	春惜む	時候
8637	大正9年	春の部	杉村や神のうがらのうらゝかに	麗	時候
8638	大正9年	春の部	神々に縄墨匂へ家の春	初春	時候
8639	大正9年	春の部	玉の如く春寒凝りて句録の句	春寒	時候
8640	大正9年	春の部	山際に片よりて梅の徑かな	梅	植物
8641	大正9年	春の部	梅一木二木や風邪もなき小村	梅	植物
8642	大正9年	春の部	梅早し何に驅け去る軍人	梅	植物
8643	大正9年	春の部	梅の老樹に近寄らで過ぐ里人よ	梅	植物
8644	大正9年	春の部	梅に月誰ぞ宿禽を驚かす	梅	植物
8645	大正9年	春の部	梅に管せず潭心の月に立つ	梅	植物
8646	大正9年	春の部	梅寒く苦吟曉に達しけり	梅	植物
8647	大正9年	春の部	瓶梅の蕾や苦吟夜を徹す	梅	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8648	大正9年	春の部	風邪入らぬ里の往來や梅の花	梅	植物
8649	大正9年	春の部	梅を遠く去るや柳を縮めべく	梅柳	植物
8650	大正9年	春の部	暁を啼くや梅の寒きに水鳥も	梅	植物
8651	大正9年	春の部	水鳥の孤獨となりぬ梅の花	梅	植物
8652	大正9年	春の部	古舊挨拶す梅の戸柳の門	梅柳	植物
8653	大正9年	春の部	桃夭々雛の主人のねびまさり	雛祭	人事
8654	大正9年	春の部	古雛にあるじまうけも無かりけり	雛祭	人事
8655	大正9年	春の部	かりそめの雛にかゞやく灯かな	雛祭	人事
8656	大正9年	春の部	雛まつる大家の庭の闇深し	雛祭	人事
8657	大正9年	春の部	夜の雨襲ひ來にけり雛が宿	雛祭	人事
8658	大正9年	春の部	雛の間に狗吠鶏鳴聞えけり	雛祭	人事
8659	大正9年	春の部	料紙硯文したゝむる雛の前	雛祭	人事
8660	大正9年	春の部	雛を見て帰るさ眉のよな月が	雛祭	人事
8661	大正9年	春の部	門をなす柳に出入る雛の人	雛祭	人事
8662	大正9年	春の部	雛過ぎて更に活けたる桃白し	桃	植物
8664	大正9年	春の部	ゆく春の取つく物も無かりけり	行春	時候
8665	大正9年	春の部	誰と共に春を惜まん筆硯	春惜む	時候
8666	大正9年	春の部	ゆく春を大風吹いて籠りゐる	行春	時候
8771	大正10年	春の部	野路稀にゆく人や梅に管らず	梅	植物
8772	大正10年	春の部	自から起ちて探梅の糧作る	探梅	人事
8773	大正10年	春の部	梅さくやいかに傳へて古瓢	梅	植物
8774	大正10年	春の部	我をさけて苔はむ鳥や梅の花	梅	植物
8775	大正10年	春の部	梅寒うして暦日を過たず	梅	植物
8776	大正10年	春の部	梅の曙既に人ある麦畠	梅	植物
8777	大正10年	春の部	梅寒し火箭の稽古の戻り人	梅	植物
8778	大正10年	春の部	人遠し梅蕾堅く水急に	梅	植物
8779	大正10年	春の部	梅柳日の景移る一郭	梅柳	植物
8780	大正10年	春の部	梅ちる軒海苔干す戸風平かに	梅	植物
8781	大正10年	春の部	木芽吹くや朝山越ゆるかしま立	木の芽	植物
8782	大正10年	春の部	顔回ハ學を好みり木芽和	木芽和	人事
8783	大正10年	春の部	藪木の芽赤くほぐれつ晝蛙	木の芽	植物
8784	大正10年	春の部	涅槃會大雨境内の木芽寒ム	木の芽	植物
8785	大正10年	春の部	ちよと摘みて / \ 木芽つみ憂かり	木の芽	植物
8786	大正10年	春の部	漣や橋の袂の木芽摘	木の芽	植物
8787	大正10年	春の部	木芽摘風に吹かれて唄ひをり	木の芽	植物
8788	大正10年	春の部	木芽照るや馬を走らす少年輩	木の芽	植物
8789	大正10年	春の部	谷水の日減りて木芽ほうけたり	木の芽	植物
8790	大正10年	春の部	諸木の芽色づく見てや雁急ぐ	木の芽	植物
8791	大正10年	春の部	水に照る木芽や蘆はかれ / \ て	木の芽	植物
8792	大正10年	春の部	谷川の濁うすらぎて暁の花	花	植物
8793	大正10年	春の部	岩魚釣る人と相識らず山櫻	山櫻	植物
8794	大正10年	春の部	櫻狩劔客道を譲り去る	花見	人事
8795	大正10年	春の部	花ちるや手づから藏む古硯	落花	植物
8796	大正10年	春の部	燭を採れば花の筵の人空し	花見	人事
8797	大正10年	春の部	舊道や今を盛りの山櫻	山櫻	植物
8798	大正10年	春の部	旅人に花ふる里の荒にけり	花	植物
8799	大正10年	春の部	ちる花に斯松栽ゑし人を想ふ	落花	植物
8800	大正10年	春の部	花人を送りて蛙鳴出しぬ	花	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8801	大正10年	春の部	花に急ぐ人の絶間の陽炎よ	花	植物
8802	大正10年	春の部	花漬けて故人至るを待たん哉	花	植物
8804	大正10年	春の部	行春や足つまだつる山一ツ	行春	時候
8929	大正11年	春の部	彼岸近し人の子の目に杖なんど	彼岸	人事
8931	大正11年	春の部	紙鳶繪かく弟を見て物いはず	凧	人事
8932	大正11年	春の部	紙鳶の句に忍び雛の句に泣きぬ	凧	人事
8933	大正11年	春の部	紙鳶も揚り雪崩越え来し安堵哉	凧	人事
8934	大正11年	春の部	雪崩越えし安堵を揚る紙鳶	凧	人事
8935	大正11年	春の部	暮一人尚凧揚げむ風待ちぬ	凧	人事
8936	大正11年	春の部	繪凧持歸る枯木の奥の家	凧	人事
8937	大正11年	春の部	大鳥の抜羽を茲に草もゆる	草蒨	植物
8938	大正11年	春の部	樹の枝のかげ太やかに土ぬくき	暖	時候
8939	大正11年	春の部	鶯や例の端山に日の照りて	鶯	動物
8940	大正11年	春の部	むら杉を繞りて春の水光る	春の水	地理
8941	大正11年	春の部	衆禽は邇く鶯遐か也	鶯	動物
8942	大正11年	春の部	羽毛異なりて一樹に轉るよ	轉	動物
8943	大正11年	春の部	鳥下りて春の地息に浸りけり	春の土	地理
8944	大正11年	春の部	愁ひて書樓に在れば柳青し	柳	植物
8945	大正11年	春の部	山川の淵瀬久しき櫻哉	櫻	植物
8946	大正11年	春の部	春の夜の人を玉なる夢路哉	春夜	時候
8947	大正11年	春の部	時ありて巨人の影や蛙の子	蝌蚪	動物
8948	大正11年	春の部	朝ぼらけ大河隔てゝ雉子の聲	雉子	動物
8949	大正11年	春の部	木芽より雨の餘りて枯芝へ	木の芽	植物
8950	大正11年	春の部	したゝかに雨に打たるゝ堇哉	堇	植物
8951	大正11年	春の部	朝晴に袴干しけり土筆達	土筆	植物
8952	大正11年	春の部	碑の苔を掃はで久し春の雨	春雨	天文
8953	大正11年	春の部	朝霽や木芽潤ほし足らぬ雨	木の芽	植物
8954	大正11年	春の部	旦に出て夕に歸れば櫻哉	櫻	植物
8955	大正11年	春の部	陽炎に野をやく子等のかけめぐる	陽炎	天文
8956	大正11年	春の部	二三十の目高に田螺一ツかな	雑	雑
8957	大正11年	春の部	春雨や茸の事に立咄シ	春雨	天文
8959	大正11年	春の部	僧と地を指點す一鳥轉るに	轉	動物
8960	大正11年	春の部	この垣に五加木つみけむ昔かな	五加木	植物
8961	大正11年	春の部	花鳥や白骨うめん此ところ	花	植物
8962	大正11年	春の部	ねもごろに繕はしめつ五加木垣	五加木	植物
8963	大正11年	春の部	城の如く花の大樹の聳えけり	花	植物
8964	大正11年	春の部	春雨に潤ひ足りし大地哉	春雨	天文
8965	大正11年	春の部	春雨にひたぬれて巢の營か	春雨	天文
8966	大正11年	春の部	愁見る碑の舊苔や春の雨	春雨	天文
8967	大正11年	春の部	春の雨烟るが中の日は南	春雨	天文
8968	大正11年	春の部	春雨のまだきに晴れて日遍し	春雨	天文
8969	大正11年	春の部	春雨の夢を掠めて蚊の去りし	春雨	天文
8970	大正11年	春の部	春の雨晴るゝに近し日の朧	春雨	天文
8971	大正11年	春の部	はやうもれゆく骨壺や春の雨	春雨	天文
8972	大正11年	春の部	白骨を埋むるに雨の落花哉	落花	植物
8973	大正11年	春の部	春雨や見るまにぬれし土饅頭	春雨	天文
8974	大正11年	春の部	春雨の自から垂る墓辺の樹	春雨	天文
8976	大正11年	春の部	一鍬の土にかげろふ畏さよ	陽炎	天文

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8977	大正11年	春の部	さゝやかに虫巢ふ草芳しく	草芳し	植物
8978	大正11年	春の部	草芳しく女かほよし流レ水	草芳し	植物
8980	大正11年	春の部	悲しくも餘花の白さを眼睛に	餘花	植物
8982	大正11年	春の部	湖の魚飛を心に風光る	風光る	天文
8983	大正11年	春の部	行春の一日を聳ゆ雲の峰	行春	時候
8984	大正11年	春の部	牡丹さげて群衆にふれさせじとす	牡丹	植物
8985	大正11年	春の部	湖辺近くゆく / \ 春の草老いぬ	春の草	植物
9171	大正12年	春の部	一方に柳靡きつ春吹雪	春吹雪	天文
9172	大正12年	春の部	中流の舟に日射しや春吹雪	春吹雪	天文
9173	大正12年	春の部	思はずの月ハ臙に春吹雪	春吹雪	天文
9174	大正12年	春の部	我等が灯目にや映りて梟啼く	梟	動物
9175	大正12年	春の部	議論無用深夜梟に罵らる	梟	動物
9178	大正12年	春の部	梅柳唐人笛も聞ゆなり	梅柳	植物
9180	大正12年	春の部	南國の人を弔ふ雪解哉	雪解	地理
9181	大正12年	春の部	女もまじり何の往來や雪融に	雪解	地理
9183	大正12年	春の部	春服や詠じて帰る日高きに	春服	人事
9185	大正12年	春の部	鳥雲に入る時君がたよりかな	鳥入雲	動物
9186	大正12年	春の部	雪解水畔越すに人等語りすぐ	雪解	地理
9187	大正12年	春の部	野蒜萌え / \ 風渡る地を歩む	野蒜	植物
9188	大正12年	春の部	春山の霞を吸ひて樵る見ゆ	春の山	地理
9189	大正12年	春の部	畔近く田螺遊ぶや露の臺	露の臺	植物
9191	大正12年	春の部	先生を送るや春の水に浴ひ	春の水	地理
9193	大正12年	春の部	皆鳴くに鳴かぬ蛙の慵さよ	蛙	動物
9194	大正12年	春の部	芹摘みに天翔りゆく鳥影す	芹	植物
9195	大正12年	春の部	芹摘や四澤の水の湊まるに	芹	植物
9196	大正12年	春の部	莖芹のつむべくなりぬ雁別れ	芹	植物
9197	大正12年	春の部	家遠く芹つむ子等に歸雁哉	芹	植物
9198	大正12年	春の部	せゝらぎに日の匂ひけり芹みどり	芹	植物
9199	大正12年	春の部	芹摘の喚べバ鷹へて田螺採り	芹	植物
9200	大正12年	春の部	芹摘は黙し梅見の語り過ぐ	雑	雑
9202	大正12年	春の部	雲歸る峰又峰の麗かに	麗	時候
9204	大正12年	春の部	春風に背ら吹かせて家路かな	春風	天文
9205	大正12年	春の部	芹採や卑しからざる女の童	芹	植物
9206	大正12年	春の部	芹濯ぐ流れ夕東風吹渡る	芹	植物
9207	大正12年	春の部	芹摘の子等に轟く雷一ツ	芹	植物
9208	大正12年	春の部	山陰や春のつゆおく柴さくら	芝櫻	植物
9209	大正12年	春の部	お兵庫の址のみ存す花遅し	花	植物
9210	大正12年	春の部	三日照りて一日潤ふ春田かな	春の田	地理
9211	大正12年	春の部	崇山や霞を透す雪の襞	霞	天文
9212	大正12年	春の部	照り / \ て一日の夕霞みけり	霞	天文
9214	大正12年	春の部	この花に誰か識らむや雁の糞	花	植物
9215	大正12年	春の部	日の雨や楓のぬれ葉濡れ燕	燕	動物
9216	大正12年	春の部	朝戸出の苗代見るや燕も	燕	動物
9217	大正12年	春の部	芍薬の頃双棲の燕かな	燕	動物
9218	大正12年	春の部	燕の來著きし里や花遅し	燕	動物
9219	大正12年	春の部	遠山の雪や燕蹴る	燕	動物
9220	大正12年	春の部	老一人留守居燕子慈々と鳴く	燕の子	動物
9221	大正12年	春の部	翁媪挨拶す燕筋かひに	燕	動物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9222	大正12年	春の部	一ツ家や双飛の燕寢に歸る	燕	動物
9223	大正12年	春の部	燕の今宵を寝ぬる舊巢哉	燕	動物
9224	大正12年	春の部	野仕事や燕もまじる大族ヲ	燕	動物
9226	大正12年	春の部	草を抜いて花片を見る愁哉	花	植物
9337	大正13年	春の部	八重垣の瑞垣の邊の霞哉	霞	天文
9338	大正13年	春の部	梅の花を空薫物や御文筥	梅	植物
9339	大正13年	春の部	老一木若木に交り春吹雪	春吹雪	天文
9340	大正13年	春の部	稀に見る鮮魚に春の吹雪哉	春吹雪	天文
9341	大正13年	春の部	春吹雪白魚網を掠めけり	春吹雪	天文
9342	大正13年	春の部	都上りの美人を見るや春吹雪	春吹雪	天文
9344	大正13年	春の部	人も無げに端山鶯啼にけり	鶯	動物
9345	大正13年	春の部	雲雀沈むや火を免れたる古芒	雲雀	動物
9346	大正13年	春の部	雲雀の國蛙の國と相隣る	雉	雑
9347	大正13年	春の部	舞雲雀紫の山を讃へつゝ	雲雀	動物
9348	大正13年	春の部	今晴れし野路の乾きや舞雲雀	雲雀	動物
9349	大正13年	春の部	やおら起ちぬ雲雀に名残留めつゝ	雲雀	動物
9350	大正13年	春の部	雲雀野や日に相見る少女どち	雲雀	動物
9351	大正13年	春の部	雲雀野の水平かに流れけり	雲雀	動物
9352	大正13年	春の部	雨細し雲雀揚れば日は南	雲雀	動物
9353	大正13年	春の部	舞雲雀金鷄山は此方かな	雲雀	動物
9354	大正13年	春の部	不二の根の雪怖ろしき雲雀哉	雲雀	動物
9355	大正13年	春の部	落雲雀大根の花を戀ひつゝか	雲雀	動物
9356	大正13年	春の部	春曉の戸にふれて花賣の居り	春曉	時候
9357	大正13年	春の部	吟行の早蕨を折る暇哉	蕨	植物
9358	大正13年	春の部	貴人は野亭におはす蕨哉	蕨	植物
9359	大正13年	春の部	鳥の巢と梢はなりぬ古人の碑	鳥の巢	動物
9360	大正13年	春の部	鳥の巢に塔の丹碧間近なる	鳥の巢	動物
9361	大正13年	春の部	行春の海山かけて風斜	行春	時候
9362	大正13年	春の部	鳥の巢に夜のくもりと成にけり	鳥の巢	動物
9363	大正13年	春の部	藪淺く蕨折る人見知りけり	蕨	植物
9364	大正13年	春の部	旅心そらに鳥の巢高き哉	鳥の巢	動物
9365	大正13年	春の部	啼かはす鳥やこゝらに巢ひけむ	鳥の巢	動物
9366	大正13年	春の部	行春の或は水を趁ひありく	行春	時候
9367	大正13年	春の部	鳥の巢や城の良天徳寺	鳥の巢	動物
9368	大正13年	春の部	蕨折り / \ 山川の淵に臨みけり	蕨	植物
9369	大正13年	春の部	行春や露けしと思ふ宵ありき	行春	時候
9370	大正13年	春の部	蕨折るや遥かに望む市の塵	蕨	植物
9371	大正13年	春の部	行春の鳥のいさかふ草の上	行春	時候
9509	大正14年	春の部	春寒に在りて君がため句を思ふ	春寒	時候
9510	大正14年	春の部	春吹雪一ト時ありてたれ柳	春吹雪	天文
9511	大正14年	春の部	春寒や蝕みつゞる從軍記	春寒	時候
9512	大正14年	春の部	鶯や雪より起きし小柴原	鶯	動物
9513	大正14年	春の部	田の水の饒かなるまゝ田螺在り	田螺	動物
9515	大正14年	春の部	鶯の古巢たづねむ山椿	椿	植物
9517	大正14年	春の部	轉や珠を掘得て山下の	轉	動物
9519	大正14年	春の部	朧夜や橋を渡れば松の里	朧	天文
9520	大正14年	春の部	鶯や山畑拓く朝仕事	鶯	動物
9521	大正14年	春の部	春の野にこもりて物の鳴く音哉	春の野	地理

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9522	大正14年	春の部	鳥どもの恋さまさまに霞かな	霞	天文
9523	大正14年	春の部	春愁を知らず流に沿うてゆく	春愁	人事
9524	大正14年	春の部	山行の杉苗春の露しげみ	春の露	天文
9525	大正14年	春の部	木芽あへ處々の啼鳥朗かに	木芽和	人事
9527	大正14年	春の部	曉深み鳥啼立つる卯月哉	卯月	時候
9529	大正14年	春の部	夏に入る草の色城の石垣も	立夏	時候
9530	大正14年	春の部	夏に入る葉雫窓を拂ふ哉	立夏	時候
9531	大正14年	春の部	夏に入る雨小寒しや城の木々	立夏	時候
9532	大正14年	春の部	故郷やつゝじがくれに知る女	躑躅	植物
9533	大正14年	春の部	水茶屋の水にさしたるつゝじ哉	躑躅	植物
9534	大正14年	春の部	旅人とつゝじに昔語かな	躑躅	植物
9535	大正14年	春の部	初夏の雨園林を潤しぬ	初夏	時候
9537	大正14年	春の部	卯の花の白き憂を主とす	卯の花	植物
9539	大正14年	春の部	野遊のいつこ硯の水汲まん	野遊	人事
9540	大正14年	春の部	雲雀鳴いて野遊の友など遅き	野遊	人事
9541	大正14年	春の部	野遊や筵のはしの百千草	野遊	人事
9542	大正14年	春の部	野遊や遙かに望む渡舟	野遊	人事
9543	大正14年	春の部	野遊やあらぬ方より男達	野遊	人事
9545	大正14年	春の部	まぼろしやつゝじがくれに小さき物	躑躅	植物
9547	大正14年	春の部	野遊の耳聳つる雉子の聲	野遊	人事
9549	大正14年	春の部	水の上の龍神堂や夏に入る	立夏	時候
9550	大正14年	春の部	神さびてよしある藤の葉勝なる	藤の花	植物
9551	大正14年	春の部	春惜む人々こぞり水の辺に	春惜む	時候
9552	大正14年	春の部	我と相見て春惜む美人かも	春惜む	時候
9553	大正14年	春の部	噴水の断えつ続きつ藤落花	藤の花	植物
9555	大正14年	春の部	風吹かば吹け幟押立てん	幟	人事
9557	大正14年	春の部	京阪の方角つゝじ藪越に	躑躅	植物
9558	大正14年	春の部	蕨老いてはるけくなりし旅路哉	蕨	植物
9681	大正15年	春の部	春伐りの木口麗に匂ふ哉	麗	時候
9682	大正15年	春の部	春立や蒲團清らに雨をさく	立春	時候
9684	大正15年	春の部	熊撃てとそゝのかす雪の別哉	雪の果	天文
9685	大正15年	春の部	残雪の清らに柳しだれけり	残雪	地理
9686	大正15年	春の部	柳青き見つ書樓を下る時	柳	植物
9688	大正15年	春の部	梅柳天麗かに覆ふ哉	梅柳	植物
9689	大正15年	春の部	絵冊子の亂れ兒らはや雪に出づ	雪	天文
9690	大正15年	春の部	青松葉こぼれて道の凍返る	凍返る	地理
9691	大正15年	春の部	欄前や朧漲る垂柳	朧	天文
9693	大正15年	春の部	老のはて寂の極ミを梅の花	梅	植物
9695	大正15年	春の部	夢しば / 青を踏みぬ雪の宿	踏青	人事
9696	大正15年	春の部	細々と垂氷す春の曉に	春曉	時候
9697	大正15年	春の部	雪名残下萌故に消えにつゝ	雪の果	天文
9699	大正15年	春の部	清淺の水春寒の鶴もなし	春寒	時候
9700	大正15年	春の部	鶯に顔セ古き怡々如たり	鶯	動物
9701	大正15年	春の部	麗や堯にかも似し御頼	麗	時候
9702	大正15年	春の部	二三子後れて至る露の臺	露の臺	植物
9703	大正15年	春の部	詩を学びたりや未だし土筆摘	土筆	植物
9704	大正15年	春の部	麗や各志を言へ	麗	時候
9705	大正15年	春の部	野焼已まず水に臨んで夫子在す	野山焼	人事

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9706	大正15年	春の部	鶯を其處と聴きけり山の上	鶯	動物
9707	大正15年	春の部	春風の古葉飛ばすや日の表	春風	天文
9708	大正15年	春の部	谷川のきり岸木芽尚堅し	木の芽	植物
9709	大正15年	春の部	暖や人の棲みけむ大昔	暖	時候
9710	大正15年	春の部	逕行く人影載せて春の水	春の水	地理
9711	大正15年	春の部	童子来てこそづかしけり古落葉	古落葉	植物
9712	大正15年	春の部	いつの世の石器うもれて堇かな	堇	植物
9714	大正15年	春の部	鶯の聲喬木の枝に在り	鶯	動物
9715	大正15年	春の部	春の塵と山吹なりぬうつ木垣	春塵	天文
9717	大正15年	春の部	山の雨城下の花に晴にけり	花	植物
9719	大正15年	春の部	或時は釣りさげて花の神祭れ	花	植物
9721	大正15年	春の部	笑を含んで巷の花に手を分つ	花	植物
9722	大正15年	春の部	花に約して松露を贈り來りけり	花	植物
9723	大正15年	春の部	草芳しと見つゝや草履作るらん	草芳し	植物
9724	大正15年	春の部	登臨や萬戸の花の揺ぐ風	花	植物
9725	大正15年	春の部	花人につみて示しぬ通草の芽	花	植物
9726	大正15年	春の部	山路来て花見の裳かゝげけり	花見	人事
9727	大正15年	春の部	花堇こゝに句箋を埋むべく	堇	植物
9728	大正15年	春の部	慵しや衣を拂ふ花のちり	花	植物
9730	大正15年	春の部	蕨長けて子を悲しがる雉子哉	雉子	動物
9731	大正15年	春の部	野に出でゝ泉を遠み春惜む	春惜む	時候
9732	大正15年	春の部	行春の句をかきつらね反古哉	行春	時候
9733	大正15年	春の部	春惜む句未成らず古手帖	春惜む	時候
9734	大正15年	春の部	衣につく柳の絮や春惜む	春惜む	時候
9735	大正15年	春の部	藤つゝじ小高き所友を喚ぶ	雑	雑
9736	大正15年	春の部	藤つゝじ水を索ねて人去りぬ	雑	雑
9737	大正15年	春の部	野遊や所をかへて河嶽の景	野遊	人事
9738	大正15年	春の部	つゝじちりしきて馬糞古りにけり	躑躅	植物
9739	大正15年	春の部	行春や盟ひに背く漁者の友	行春	時候
9969	昭和2年	春の部	大空の春は立てども陰りけり	立春	時候
9970	昭和2年	春の部	春立といへども大地しづま也	立春	時候
9971	昭和2年	春の部	天地を罩めて春寒ひたに在り	春寒	時候
9972	昭和2年	春の部	月は入りぬうなじも膝も春の霜	春霜	天文
9973	昭和2年	春の部	春寒の伊吹に遭ひぬ天が下	春寒	時候
9974	昭和2年	春の部	天そゝる氷は未だ融けなくに	氷	天文
9975	昭和2年	春の部	早川も今かよどまん凍返り	凍返る	地理
9977	昭和2年	春の部	麟鳳來宿帳も綴りけむ	帳綴	人事
9978	昭和2年	春の部	二月や研がんと思ふ斧の錆	二月	時候
9979	昭和2年	春の部	如月や木神祀る樵ども	如月	時候
9980	昭和2年	春の部	二月や新陵の霜の花	二月	時候
9981	昭和2年	春の部	二月や尚繪具ぬる五文舩	二月	時候
9982	昭和2年	春の部	二月や又現はれし山の鬼	二月	時候
9984	昭和2年	春の部	大利根の奥の氷を劈きぬ	氷解	地理
9985	昭和2年	春の部	春泥や嘴を淨めて枝に鳥	春泥	地理
9987	昭和2年	春の部	春泥やいづこを関の蹄跡	春泥	地理
9988	昭和2年	春の部	春泥や籬落の花の白勝に	春泥	地理
9989	昭和2年	春の部	春泥に搏ち落したる小蟲哉	春泥	地理
9990	昭和2年	春の部	春泥や古き都の淺茅原	春泥	地理

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9991	昭和2年	春の部	春淺し誰が句に入らむ柳の芽	春淺し	時候
9992	昭和2年	春の部	古梅の魂呼びさませ春の雪	春雪	天文
9993	昭和2年	春の部	碧空や雪間うれしき露の臺	露の臺	植物
9994	昭和2年	春の部	柳垂れてうすらひ自から融くる	薄氷	地理
9995	昭和2年	春の部	春の霜柳に解けて流れけり	春霜	天文
9996	昭和2年	春の部	いちじるく柳青みぬ春吹雪	春吹雪	天文
9997	昭和2年	春の部	火を鑽りて三月絶たずえぞが山	野山焼	人事
9998	昭和2年	春の部	山焼くる遠し合戦繪巻見る	野山焼	人事
9999	昭和2年	春の部	雪汁の川波高し野火の果	野山焼	人事
10000	昭和2年	春の部	大嶺の七岐八岐焼くる見ゆ	野山焼	人事
10001	昭和2年	春の部	山焼の燧袋も古にけり	野山焼	人事
10002	昭和2年	春の部	山焼や火を鑽れば啼く枝の鳥	野山焼	人事
10004	昭和2年	春の部	鶯の宿をこそ見め曉深く	鶯	動物
10005	昭和2年	春の部	おのがじゝ地を占めてをり露の臺	露の臺	植物
10006	昭和2年	春の部	欣然口を開くに似たり露の臺	露の臺	植物
10007	昭和2年	春の部	草蒨えぬ地もなし吾子思はぬ日も	草蒨	植物
10008	昭和2年	春の部	草蒨ゆるはじめ大方紫に	草蒨	植物
10009	昭和2年	春の部	鳥も來ずすくよかに草蒨え出でぬ	草蒨	植物
10010	昭和2年	春の部	風邪の目に早下蒨の淺みどり	草蒨	植物
10012	昭和2年	春の部	巢雀の夙に出て啼く此事か	雀の巢	動物
10014	昭和2年	春の部	うがらやがら雀も囃せ鶯も	鶯	動物
10016	昭和2年	春の部	遠つ祖の倚りにけむ木ぞ百千鳥	百千鳥	動物
10017	昭和2年	春の部	梅柳鼎にちりも無かりけり	梅柳	植物
10019	昭和2年	春の部	我が外に誰ぞ鶯を諦聴す	鶯	動物
10021	昭和2年	春の部	遷りゆく喬木正に芽ぶきつゝ	芽吹く	植物
10023	昭和2年	春の部	牡丹の朱となるべく蒼む哉	牡丹	植物
10025	昭和2年	春の部	明日の事に松露を掘らん夜の雨	松露	植物
10026	昭和2年	春の部	松露掘れと吾に簞かす主人あり	松露	植物
10027	昭和2年	春の部	花に負きて遙けくも來つ松露掘	松露	植物
10028	昭和2年	春の部	松露掘りし籃にいづこの落花哉	松露	植物
10029	昭和2年	春の部	海に向いて長嘯す或ハ松露掘る	松露	植物
10030	昭和2年	春の部	古草を焚く火に松露炙りけり	松露	植物
10032	昭和2年	春の部	松籟を聴て巢にある燕哉	燕	動物
10034	昭和2年	春の部	春惜む一筋心碑の前に	春惜む	時候
10035	昭和2年	春の部	春惜む人にまじりて往還り	春惜む	時候
10036	昭和2年	春の部	春を惜め同じ流れの季吟門	春惜む	時候
10037	昭和2年	春の部	神の前行春の塵を留めけり	行春	時候
10039	昭和2年	春の部	日は照れど霞潤ふ松の間	霞	天文
10040	昭和2年	春の部	防風老いに誰が子今朝又牛放つ	防風	植物
10042	昭和2年	春の部	誰摘まぬ木芽ほうけて鳥の啼く	木の芽	植物
10044	昭和2年	春の部	幾里行く脚の力や春暮れて	暮春	時候
10328	昭和3年	春の部	獨樹孤碑酒を酌ぎつ梅の花	梅	植物
10329	昭和3年	春の部	探梅や主人に留む三顧の詩	探梅	人事
10330	昭和3年	春の部	禽起ちて谿越す梅の東雲に	梅	植物
10331	昭和3年	春の部	梅固し急流石を轉じつゝ	梅	植物
10332	昭和3年	春の部	車輕し眉目を掠む梅の風	梅	植物
10333	昭和3年	春の部	奇しき亀畏きトや梅の花	梅	植物
10335	昭和3年	春の部	鶴頸とひさごも祝へ梅の花	梅	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10337	昭和3年	春の部	よき年のよき草摘みて籠に盈てり	摘草	人事
10339	昭和3年	春の部	ゆきす支の國定まりぬ梅柳	梅柳	植物
10341	昭和3年	春の部	轉や雨は大野を潤しぬ	轉	動物
10342	昭和3年	春の部	轉や泉に遊ぶ両三鳥	轉	動物
10343	昭和3年	春の部	轉や乳の如垂る枝の雨	轉	動物
10344	昭和3年	春の部	轉の岡低く川伸びにけり	轉	動物
10345	昭和3年	春の部	大和の山相争ひき轉に	轉	動物
10346	昭和3年	春の部	轉や相あらそひしうねび山	轉	動物
10347	昭和3年	春の部	轉や畝傍ををしと争ひし	轉	動物
10348	昭和3年	春の部	千峰萬峰の底や涅槃像	涅槃會	人事
10349	昭和3年	春の部	雪山をまのあたりにす涅槃像	涅槃會	人事
10350	昭和3年	春の部	沙羅双樹の萌ゆる聲あり涅槃像	涅槃會	人事
10351	昭和3年	春の部	ひたゆるゝ柳の條よ春の雪	春雪	天文
10352	昭和3年	春の部	世の中は小判の沙汰や猫の戀	猫の戀	動物
10354	昭和3年	春の部	雲の上は白酒黒酒に匂ふ秋	秋	時候
10356	昭和3年	春の部	薰風や五六騎城を出て遊ぶ	薰風	天文
10357	昭和3年	春の部	精神ハ斯花白し老梅忌	鳴雪忌	人事
10358	昭和3年	春の部	細柴や路にさし出て皆芽ぐむ	芽吹く	植物
10359	昭和3年	春の部	蒨の蔓畦越す水に苔みつゝ	蒨の蔓	植物
10360	昭和3年	春の部	さまざまに戀つくしたる蛙哉	蛙	動物
10361	昭和3年	春の部	いきものゝ戀しなぐゝに水温む	水温む	地理
10362	昭和3年	春の部	踏青や龍戦ひし野を遠み	踏青	人事
10363	昭和3年	春の部	踏青や玉とあざむく鳥の糞	踏青	人事
10364	昭和3年	春の部	誰と共に青きを踏まん白頭翁	踏青	人事
10365	昭和3年	春の部	踏青の子や邯鄲の市を過ぐ	踏青	人事
10366	昭和3年	春の部	踏青やひゝなが宿に夜は寝ねん	踏青	人事
10367	昭和3年	春の部	踏青の客や故郷の人ならず	踏青	人事
10368	昭和3年	春の部	踏青や鸚鵡は籠に留まりて	踏青	人事
10369	昭和3年	春の部	鶯の來鳴くも知らず畑に在り	鶯	動物
10370	昭和3年	春の部	春の日の透る古葉よ古苔よ	春の日	天文
10372	昭和3年	春の部	此下に玉を埋めたり落椿	椿	植物
10373	昭和3年	春の部	蜂群るゝ雑木の花の一日かな	蜂	動物
10374	昭和3年	春の部	蜂來り促がす遅吟晝深く	蜂	動物
10375	昭和3年	春の部	蜂未だ起きず閑伽はや汲了へつ	蜂	動物
10376	昭和3年	春の部	蜂の巢や久矣經櫃開かざる	蜂の巢	動物
10377	昭和3年	春の部	蕊深き蜂や晨の露じめり	蜂	動物
10378	昭和3年	春の部	蕊深く蜂の翅を斂めけり	蜂	動物
10379	昭和3年	春の部	頭長き新發意蜂に螫されけり	蜂	動物
10380	昭和3年	春の部	蜂の巢や久し鐘樓に上らざる	蜂の巢	動物
10381	昭和3年	春の部	袂軽く扇の影と蜂の影	蜂	動物
10382	昭和3年	春の部	蜂の影扇の影と水に在り	蜂	動物
10383	昭和3年	春の部	扇影やかざしに迫る蜂一ツ	蜂	動物
10385	昭和3年	春の部	住吉や探題更に藤の花	藤の花	植物
10387	昭和3年	春の部	人知らぬ鶯聴くも山の幸	鶯	動物
10389	昭和3年	春の部	山法師矛の先なる藤の花	藤の花	植物
10390	昭和3年	春の部	山吹ハきのふか刈りし藤の花	藤の花	植物
10391	昭和3年	春の部	石の如憑む木枯れつ藤の花	藤の花	植物
10392	昭和3年	春の部	野茶湯の客のよるべや藤の花	藤の花	植物

春の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10394	昭和3年	春の部	恒河沙に甘露湛へつ佛生會	仏生会	人事
10395	昭和3年	春の部	灌佛や一滴々の法の乳	仏生会	人事
10396	昭和3年	春の部	紫の雲は藤かも花御堂	花祭	人事
10397	昭和3年	春の部	花御堂尚ほのかなり暮の星	花祭	人事
10398	昭和3年	春の部	雪山はうしろに聳ゆ花御堂	花祭	人事
10400	昭和3年	春の部	松露掘と人に見られし一日哉	松露	植物
10401	昭和3年	春の部	山盛の松露こぼさぬ徑かな	松露	植物
10403	昭和3年	春の部	一日野をゆけバ一日の春暮るゝ	暮春	時候
10405	昭和3年	春の部	依々として妻ハ摘みおり遅蕨	蕨	植物
10406	昭和3年	春の部	草鞋緒を結ぶに雉子のほろゝ哉	雉子	動物
10407	昭和3年	春の部	篠原や透く日斜に篠子採る	筍	植物
10606	不詳	春の部	春の夜や闇に灯して詩仙堂	春の夜	時候